

(様式第10)

厚生労働大臣 殿
令和 6年 10月 5日
開設者名 理事長 高島 茂樹

金沢医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和 年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒920-0293 石川県河北郡内灘町字大学1丁目1番地
氏名	学校法人 金沢医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

金沢医科大学病院

3 所在の場所

〒920-0293 石川県河北郡内灘町字大学1丁目1番地
電話(076) 286 - 3511

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

1	医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2	医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科	有		
内科と組み合わせた診療科名等			
1呼吸器内科	2消化器内科	3循環器内科	4腎臓内科
5神経内科	6血液内科	7内分泌内科	8代謝内科
9感染症内科	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科		11リウマチ科
診療実績			
腫瘍内科			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科				有			
外科と組み合わせた診療科名							
1 呼吸器外科		2 消化器外科		3 乳腺外科		4 心臓外科	
5 血管外科		6 心臓血管外科		7 内分泌外科		8 小児外科	
診療実績							
形成外科							

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1 精神科		2 小児科		3 整形外科		4 脳神経外科	
5 皮膚科		6 泌尿器科		7 産婦人科		8 産科	
9 婦人科		10 眼科		11 耳鼻咽喉科		12 放射線科	
13 放射線診断科		14 放射線治療科		15 麻酔科		16 救急科	

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科				有			
歯科と組み合わせた診療科名							
1 小児歯科		2 矯正歯科		3 歯科口腔外科			
歯科の診療体制							

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	リハビリテーション	2	病理診断科	3		4		5	
6		7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
36				781	817

(単位: 床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数	
医師	288	52	340	看護補助者	191	診療エックス線技師	0	
歯科医師	13	2.3	15.3	理学療法士	32	臨床検査 臨床検査技師	72	
薬剤師	59	0.3	59.3	作業療法士	16		衛生検査技師	0
保健師	3	1	4	視能訓練士	14		その他	0
助産師	23	0.6	23.6	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	0	
看護師	777	23.9	800.9	臨床工学士	16	医療社会事業従事者	0	
准看護師	0	0	0	栄養士	20	その他の技術員	5	
歯科衛生士	10	0	10	歯科技工士	2	事務職員	92	
管理栄養士	18	1	19	診療放射線技師	44	その他の職員	83	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	25	眼科専門医	7
外科専門医	29	耳鼻咽喉科専門医	10
精神科専門医	10	放射線科専門医	5
小児科専門医	9	脳神経外科専門医	7
皮膚科専門医	2	整形外科専門医	14
泌尿器科専門医	6	麻酔科専門医	9
産婦人科専門医	8	救急科専門医	5
		合計	146

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (川原 範夫) 任年月日 令和 5 年 4 月 1 日

病院長として、医療安全管理責任者を統括する他、医療安全管理委員会、医療問題調査委員会からの報告を検討し、医療事故の防止及び発生時における患者、医療従事者の安全確保を行っている

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	520 人	2.7 人	522.7 人
1日当たり平均外来患者数	1,088.90 人	58.4 人	1,147.30 人
1日当たり平均調剤数		1,106.60	剤
必要医師数		119.4	人
必要歯科医師数		4	人
必要薬剤師数		18	人
必要(准)看護師数		301	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数	29 床	心電計	有
集中治療室	915.72 m ²	鉄骨コンクリート	人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	295.5	m ²	病床数	41 床
	[移動式の場合]	台数	8	台		
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	70.48			m ²
	[共用室の場合]	共用する室名	なし			
化学検査室	384 m ²	鉄骨コンクリート	(主な設備)	臨床化学自動分析装置		
細菌検査室	109 m ²	鉄骨コンクリート	(主な設備)	微生物感受性分析装置		
病理検査室	251 m ²	鉄骨コンクリート	(主な設備)	全自動中性緩衝ホルマリン固定液作製装置、迅速自動固定包埋装置、密閉式自動固定包埋装置、凍結マイクローム、安全キャビネット、自動染色装置、自動免疫染色装置、顕微鏡		
病理解剖室	239 m ²	鉄骨コンクリート	(主な設備)	感染症防止対策用解剖台、臓器撮影装置、体重計付ストレッチャー		
研究室	7906 m ²	鉄骨コンクリート	(主な設備)			
講義室	560 m ²	鉄骨造	室数	3 室	収容定員	469 人
図書室	2143 m ²	鉄骨コンクリート	室数	2 室	蔵書数	191,000 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	66.9	%	逆紹介率	75.2	%
算出根拠	A: 紹介患者の数		10,058		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		12,284		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		882		人
	D: 初診の患者の数		16,331		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
長島 久	富山大学附属病院 副院長 (医療安全管理部長)		医療安全業務従事者	無	1
鶴澤 剛	日本大学法学部法律学科 教授		法律学業務従事者	無	1
市川 政枝	元 金沢星稜大学人間科学 部 非常勤講師		医療を受ける者	無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法 金沢医科大学病院ホ - ムページに掲載している。	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数 (人)
ウイルスに起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	8人
	0人
	0人
	0人
先進医療の種類合計数	1
取扱い患者数の合計(人)	9人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
早期胃癌に対するセンチネルリンパ節を指標としたリンパ節転移診断と個別化手術の有用性に関する臨床試験	5人
	0人
先進医療の種類合計数	1
取扱い患者数の合計(人)	6人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	ATTR心アミロイドーシスに対する治療	取扱患者数	12	12
当該医療技術の概要(循環器内科) ATTR心アミロイドーシスに対する治療薬の適応認定および治療を行っている。				
医療技術名	バルーン肺動脈形成術	取扱患者数	5	5
当該医療技術の概要(循環器内科) 肺動脈血栓内膜摘除術施行困難例で内科的治療にても十分な効果が得られない患者に対して肺動脈圧軽減、QOL及び予後改善を目的に肺動脈に対してバルーン拡張を行っている。				
医療技術名	大動脈ステント留置下の肺切除	取扱患者数	1	1
当該医療技術の概要(呼吸器外科) 上葉肺癌、扁平上皮癌の切除術の施行にあたり、癌が大動脈に浸潤していた場合、大動脈の合併切除を行う必要があり、大動脈ステント留置術と肺切除術を同時に実施する。				
医療技術名	ECMO下での気管ステント挿入術	取扱患者数	1	1
当該医療技術の概要(呼吸器外科) 循環器の悪性腫瘍により窒息状態となっている患者に対するECMO下での気管ステント挿入術の実施。				
医療技術名	肺癌(原発性・転移性)に対するロボット支援下肺葉切除術	取扱患者数	30	30
当該医療技術の概要(呼吸器外科) ロボット支援下に肺癌(原発性・転移性)に対する肺葉切除術を実施する。				
医療技術名	悪性胸膜中皮腫に対する切除/肺剥皮術	取扱患者数	3	3
当該医療技術の概要(呼吸器外科) 悪性胸膜中皮腫に対する切除/肺剥皮術を実施する。				
医療技術名	腎生検組織モノクローナル抗体染色	取扱患者数	12	12
当該医療技術の概要(腎臓内科) 従来、腎生検組織の検査は、光顕、電顕に加えて蛍光抗体による免疫グロブリン補体の染色のみが保険適用されてきたが、糸球体構成成分及び病態関連分子に対するモノクローナル抗体(C4d, C3d, HLA-DR, CoL4 5/ 2, HLA-G1, CD45, CoL1)の検索によって、より高度の診断およびこれに基づいた治療が可能である。				
医療技術名	自己免疫性および悪性腫瘍関連膜性腎症の診断と治療	取扱患者数	5	5
当該医療技術の概要(腎臓内科) 膜性腎症の診断において、内因性抗原として膜型ホスホリパーゼ A2 受容体 (M-type phospholipase A2 receptor, PLA2R)および悪性腫瘍関連も指摘されているトロンボスポンディンタイプ1ドメイン含有7A(Thrombospondin type-1 domain-containing 7A, THSD7A)および免疫グロブリンGサブクラスを組み合わせたより高度の質的診断およびこれに基づいた免疫抑制療法が可能である。				
医療技術名	選択性血漿交換療法の自己免疫性疾患に対する治療応用	取扱患者数	2	2
当該医療技術の概要(腎臓内科) 従来の血漿交換と比較して、より免疫グロブリンGを選択的に除去するとともにフィブリノーゲン等の高分子蛋白を保持する新たな選択的血漿交換療法を自己抗体と関連する各種免疫疾患(膠原病, 血液疾患, 神経疾患, 腎疾患)に適応するとともに免疫抑制療法あるいは大量 グロブリン療法と組み合わせることでより有効かつ安全な治療が可能である。				
医療技術名	低侵襲寛骨臼回転骨切り術	取扱患者数	15	15
当該医療技術の概要(整形外科) 寛骨臼形成不全症は日本人に多い疾患であり、これまで約30cmの皮膚切開で手術法が行われてきた。これを7cmの切開で筋切離を少なくし、回復も従来の2/3の期間で行える手術を行っている。				

医療技術名	O-armナビゲーションシステムを用いた整形外科手術	取扱患者数	171	171
当該医療技術の概要(整形外科)				
Implantを使用した脊椎や外傷の手術は、術者の経験や技量に依存するところが多いが、O-armナビゲーションシステムを用いることにより、経験の浅い医師でもインプラントの正確な設置や骨折の立体的な整復を可能とし、手術時間の短縮や手術の低侵襲化を図ることが出来る。				
医療技術名	自家脂肪組織由来微小細断脂肪組織片(Micro-Fragmented Adipose Tissue:MFAT)を用いた変形性膝関節症に対する治療	取扱患者数	7	7
当該医療技術の概要(整形外科)				
変形性膝関節症で保存加療で十分な効果を得られない症例に対して、Lipogemsプロセスキットで作製したMFATを膝関節内に投与している。脂肪幹細胞や血管周皮細胞が複合的に作用して、抗炎症作用や疼痛の緩和効果を発揮すると考えられている。				
医療技術名	内視鏡下経鼻の間脳下垂体腫瘍摘出術	取扱患者数	37	37
当該医療技術の概要(脳神経外科)				
内視鏡下に間脳及び下垂体腫瘍を経鼻的に摘出する手術方法であり、下垂体腺腫やラトケ嚢胞に適應される。特に、頭蓋咽頭腫や鞍結節髄膜腫に対しては高度な技術を要するが、高い摘出率と低い合併症率で施行している。				
医療技術名	内視鏡下脳室内腫瘍摘出術	取扱患者数	3	3
当該医療技術の概要(脳神経外科)				
脳室内腫瘍に対する摘出術は現在でも非常に治療困難な領域であるが、これを内視鏡下に行うことで安全に摘出できる。内視鏡による広い術野で周囲を確認しながら摘出可能であるために安全で確実な手術を提供できる。				
医療技術名	小児腰仙椎脂肪腫摘出術	取扱患者数	2	2
当該医療技術の概要(脳神経外科)				
小児の脊髄脂肪腫に対する摘出術も高度な技術を要する、しかも神経モニタリングを施行しながら安全に行っている。脂肪腫を摘出して、脊髄終糸を切断することで、小児の成長と発育を促すことができ、非常に有用な手術である。				
医療技術名	脊髄髄内腫瘍摘出術	取扱患者数	1	1
当該医療技術の概要(脳神経外科)				
脊髄の髄内腫瘍も非常に難易度の高い手術である。しかし当科は脊椎脊髄の手術を従来より多く施行しているため安全に施行できる。これも術前の詳細な放射線学的検査と術中の神経モニタリング、さらには摘出標本の病理診断も必要な分野である。				
医療技術名	気膀胱下尿管移行術	取扱患者数	5	5
当該医療技術の概要(小児外科)				
膀胱切開を行わず尿管移行術を小児に行う術式を北陸で唯一施行できる施設としてこれを継続して行っている				
医療技術名	ロボット支援下腎盂形成術	取扱患者数	2	2
当該医療技術の概要(小児外科)				
ロボット支援下により、より小さい手術創で低侵襲の手術が可能となり、在院日数短縮にも寄与しており、これおを行っている。				
医療技術名	ロボット支援下先天性胆道拡張症手術	取扱患者数	1	1
当該医療技術の概要(小児外科)				
ロボット支援下により、より繊細な操作を可能とし、質の高い手術の提供を北陸で唯一行っている				
医療技術名	ロボット支援下直腸悪性腫瘍手術	取扱患者数	30	30
当該医療技術の概要(一般・消化器外科)				
ロボット支援下に直腸がんに対する低位前方切除術を実施する。				
医療技術名	ロボット支援下胃悪性腫瘍手術	取扱患者数	20	20
当該医療技術の概要(一般・消化器外科)				
ロボット支援下に胃がんに対する胃切除術を実施する。				
医療技術名	ロボット支援下食道悪性腫瘍手術	取扱患者数	10	10
当該医療技術の概要(一般・消化器外科)				
ロボット支援下に食道がんに対する食道切除術を実施する。				
医療技術名	歯科矯正治療と外科的な顎骨の骨切り手術を併用した外科的矯正手術	取扱患者数	40	40
当該医療技術の概要(歯科口腔科)				
顎顔面頭蓋の成長・発育異常による上下の骨格の不調和に歯の位置の異常が加わることにより、重度の咬み合わせの異常と顔面の変形を呈する顎変形症に対して、歯科矯正治療と外科的な顎骨の骨切り手術を併用した外科的矯正手術を行っている。治療の対象は上顎前突症、下顎前突症、上下顎前突症、上顎後退症、下顎後退症、開咬症、顔面非対称となっている。				

医療技術名	希少遺伝性疾患の遺伝カウンセリングと遺伝子診断	取扱患者数	54	54
当該医療技術の概要(ゲノム医療センター)				
指定難病や小児慢性特定疾患の申請に必要な遺伝子検査、その他の責任遺伝子が判明しているメンデル遺伝性疾患を対象に、遺伝カウンセリングを行った上で、本人や家族の希望に沿う形で院内で遺伝子検査を実施(石川県衛生検査所登録番号5)。検査結果は再診時に遺伝カウンセリングと並行して説明、紹介医と連携し、遺伝学的管理指針をレポートにして提供。希少遺伝性疾患患者の医療に役立てている。				
医療技術名	家族性腫瘍症候群の遺伝カウンセリングと遺伝子診断	取扱患者数	33	33
当該医療技術の概要(ゲノム医療センター)				
遺伝性乳癌卵巣癌、リンチ症候群、甲状腺髄様癌は頻度の高い家族性腫瘍症候群である。近年、分子標的薬のコンパニオン診断としてBRCA変異やMSI-Hが検出される頻度が増えてきており、患者本人に対するカウンセリング、患者家族に対するカウンセリングと遺伝子検査が急務となっている。しかしリンチ症候群のMMR遺伝子検査には保険適応はなく、BRCA遺伝子検査は癌非発症患者には保険適応がない。金沢医科大学病院ゲノム医療センターでは院内に遺伝子検査室を設け(石川県衛生検査所登録番号5)、低価格の自費診療として必要な患者に検査を供給している。				
医療技術名	がん遺伝子パネル検査の二次的所見に対する遺伝医療	取扱患者数	1	1
当該医療技術の概要(ゲノム医療センター)				
悪性腫瘍に生じた遺伝子の変化をパネル検査として網羅的に解析し、その結果を基にした最適な化学療法を選択する。しかしながら数百個の遺伝子を網羅的に解析するため、二次的所見として患者が家族性腫瘍症候群やその他の遺伝性疾患を有していることが発覚する場合がある。この際のカounselingや、確定診断のための遺伝子検査を提供している。				
医療技術名	HPVの遺伝子型解析	取扱患者数	10	10
当該医療技術の概要(皮膚科)				
HPVの遺伝子型解析と疾患の解明				
医療技術名	真菌症の遺伝子型解析	取扱患者数	10	10
当該医療技術の概要(皮膚科)				
真菌の遺伝子型解明				
医療技術名	真菌症の菌種同定	取扱患者数	10	10
当該医療技術の概要(皮膚科)				
真菌の遺伝子型による同定				
医療技術名	聴覚情報処理障害の診断	取扱患者数	12	12
当該医療技術の概要(耳鼻咽喉科)				
聴覚情報処理障害患者の診断を行っている。本疾患の診断が行える施設は全国的にも少なく、石川県内では唯一である。				
医療技術名	メニエール病に対するHydropsMRIによる診断	取扱患者数	11	11
当該医療技術の概要(耳鼻咽喉科)				
メニエール病の診断に3T MRIを用いたガドリニウム造影HydropsMRIを行っている。				
医療技術名	ナビゲーション支援下鼻副鼻腔内視鏡手術	取扱患者数	30	30
当該医療技術の概要(耳鼻咽喉科)				
合併症の多い鼻副鼻腔内視鏡手術の安全性、確実性向上のため、ナビゲーションガイド下での手術を行っている。				
医療技術名	多重蛍光免疫染色を用いたリンパ節病変の評価	取扱患者数	20	20
当該医療技術の概要(血液リウマチ・膠原病科)				
TAFRO症候群、多中心性Castleman病、IgG4関連疾患など臨床的に時に鑑別困難な疾患群のリンパ節病理診断を、多重蛍光免疫染色を用いて、詳細に解析しより特異度の高い診断に結びつける。				
医療技術名	TAFRO症候群の診断と治療	取扱患者数	10	10
当該医療技術の概要(血液リウマチ・膠原病科)				
TAFRO症候群は2010年より報告された新しい疾患であり、全身性の重篤な炎症性疾患である。的確な診断と迅速な治療開始救命の鍵となるが、それは容易ではない。当科ではコンサルトやセカンドオピニオンを含め多くの症例経験がある。				
医療技術名	血管内大細胞型B細胞性リンパ腫の臨床的診断基準を用いた迅速治療	取扱患者数	5	5
当該医療技術の概要(血液リウマチ・膠原病科)				
血管内大細胞型B細胞性リンパ腫は高齢者の不明熱の原因疾患で、重症化する前に適切な化学療法を開始する必要がある。当科にて提唱した臨床的診断基準を用いる事により、病理確定診断を待たない症例でも、迅速な治療開始が可能となっている。				

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	35
取扱い患者数の合計(人)	621

4 指定難病についての診療

疾患名		患者数		疾患名		患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	2	56	ベーチェット病		23
2	筋萎縮性側索硬化症	4	57	特発性拡張型心筋症		25
3	脊髄性筋萎縮症	1	58	肥大型心筋症		9
4	原発性側索硬化症	1	59	拘束型心筋症		0
5	進行性核上性麻痺	3	60	再生不良性貧血		9
6	パーキンソン病	55	61	自己免疫性溶血性貧血		0
7	大脳皮質基底核変性症	0	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症		0
8	ハンチントン病	0	63	特発性血小板減少性紫斑病		19
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病		1
10	シャルコー・マリー・トゥース病	0	65	原発性免疫不全症候群		2
11	重症筋無力症	25	66	IgA 腎症		10
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎		18
13	多発性硬化症 / 視神経脊髄炎	39	68	黄色靭帯骨化症		6
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎 / 多巣性運動ニューロパチー	7	69	後縦靭帯骨化症		32
15	封入体筋炎	0	70	広範脊柱管狭窄症		0
16	クドウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症		25
17	多系統萎縮症	4	72	下垂体性ADH分泌異常症		4
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	13	73	下垂体性TSH分泌亢進症		1
19	ライソゾーム病	1	74	下垂体性PRL分泌亢進症		16
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病		4
21	ミトコンドリア病	4	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症		0
22	もやもや病	9	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症		20
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症		57
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)		0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症		0
26	HTLV-1関連脊髄症	0	81	先天性副腎皮質酵素欠損症		3
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症		0
28	全身性アミロイドーシス	11	83	アジソン病		0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス		18
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎		6
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症		6
32	自己食空間性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症 / 肺毛細血管腫症		0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症		5
34	神経線維腫症	10	89	リンパ管筋腫症		2
35	天疱瘡	3	90	網膜色素変性症		7
36	表皮水疱症	2	91	バッド・キアリ症候群		0
37	膿疱性乾癬(汎発型)	3	92	特発性門脈圧亢進症		2
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性胆管炎		11
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎		3
40	高安動脈炎	7	95	自己免疫性肝炎		11
41	巨細胞性動脈炎	3	96	クローン病		41
42	結節性多発動脈炎	4	97	潰瘍性大腸炎		77
43	顕微鏡的多発血管炎	12	98	好酸球性消化管疾患		2
44	多発血管炎性肉芽腫症	5	99	慢性特発性偽性腸閉塞症		1
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	11	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症		0
46	悪性関節リウマチ	11	101	腸管神経節細胞減少症		0
47	パージャー病	2	102	ルピンシユタイン・テイビ症候群		0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	103	CFC症候群		0
49	全身性エリテマトーデス	72	104	コステロ症候群		0
50	皮膚筋炎 / 多発性筋炎	37	105	チャージ症候群		0
51	全身性強皮症	26	106	クリオピリン関連周期熱症候群		0
52	混合性結合組織病	9	107	若年性特発性関節炎		3
53	シェーグレン症候群	60	108	TNF受容体関連周期性症候群		0
54	成人発症スチル病	5	109	非典型溶血性尿毒症症候群		0
55	再発性多発軟骨炎	0	110	ブラウ症候群		0

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	1	166	弾性線維性仮性黄色腫	1
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	167	マルファン症候群/ロイス・ディーツ症候群	1
113	筋ジストロフィー	2	168	エーラス・ダンロス症候群	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	169	メンケス病	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
116	アトピー性脊髄炎	0	171	ウィルソン病	1
117	脊髄空洞症	3	172	低ホスファターゼ症	0
118	脊髄髄膜瘤	0	173	VATER症候群	0
119	アイザックス症候群	1	174	那須・ハコラ病	0
120	遺伝性ジストニア	1	175	ウィーバー症候群	0
121	脳内鉄沈着神経変性症	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
122	脳表へモジデリン沈着症	0	177	ジュベール症候群関連疾患	0
123	HTRA1関連脳小血管病	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	180	ATR-X症候群	0
126	ペリー病	0	181	クルーゾン症候群	1
127	前頭側頭葉変性症	1	182	アペール症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	183	ファイファー症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	185	コフィン・シリズ症候群	0
131	アレキサンダー病	0	186	ロスマンド・トムソン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	187	歌舞伎症候群	0
133	メビウス症候群	0	188	多脾症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	189	無脾症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
136	片側巨脳症	0	191	ウェルナー症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	192	コケイン症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	194	ソトス症候群	0
140	ドラベ症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側頭葉てんかん	0	196	ヤング・シンブソン症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	197	1p36欠失症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	198	4p欠失症候群	0
144	レノックス・ガスター症候群	0	199	5p欠失症候群	0
145	ウエスト症候群	1	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
146	大田原症候群	0	201	アンジェルマン症候群	1
147	早期ミオクロニー脳症	0	202	スミス・マギニス症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	203	22q11.2欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	204	エマヌエル症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
151	ラスムッセン脳炎	0	206	脆弱X症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	208	修正大血管転位症	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	209	完全大血管転位症	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	210	単心室症	0
156	レット症候群	0	211	左心低形成症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	212	三尖弁閉鎖症	0
158	結節性硬化症	1	213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0
159	色素性乾皮症	0	214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0
160	先天性魚鱗癬	0	215	ファロー四徴症	1
161	家族性良性慢性天疱瘡	0	216	両大血管右室起始症	0
162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	3	217	エプスタイン病	0
163	特発性後天性全身性無汗症	2	218	アルポート症候群	0
164	眼皮膚白皮症	0	219	ギャロウェイ・モワット症候群	0
165	肥厚性皮膚骨膜炎	0	220	急速進行性糸球体腎炎	4

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
221	抗糸球体基底膜腎炎	1	276	軟骨無形成症	0
222	一次性ネフローゼ症候群	40	277	リンパ管腫症/ゴーム病	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
224	紫斑病性腎炎	2	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	1
225	先天性腎性尿崩症	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	1
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	0
227	オスラー病	2	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
228	閉塞性細気管支炎	0	283	後天性赤芽球癆	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
230	肺胞低換気症候群	0	285	ファンコニ貧血	0
231	1-アンチトリプシン欠乏症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
232	カーニー複合	0	287	エプスタイン症候群	0
233	ウォルフラム症候群	0	288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	0
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	1
235	副甲状腺機能低下症	1	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	1
236	偽性副甲状腺機能低下症	1	291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸型)	1
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	292	総排泄腔外反症	1
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	1	293	総排泄腔遺残	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
240	フェニルケトン尿症	2	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
241	高チロシン血症1型	0	296	胆道閉鎖症	8
242	高チロシン血症2型	0	297	アラジール症候群	0
243	高チロシン血症3型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
244	メーブルシロップ尿症	0	299	嚢胞性線維症	0
245	プロピオン酸血症	0	300	IgG4関連疾患	23
246	メチルマロン酸血症	0	301	黄斑ジストロフィー	0
247	イソ吉草酸血症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	303	アッシュー症候群	0
249	グルタル酸血症1型	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
250	グルタル酸血症2型	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
251	尿素サイクル異常症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	50
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	307	カナパン病	0
253	先天性葉酸吸収不全	0	308	進行性白質脳症	0
254	ボルフィリン症	0	309	進行性ミオクローヌスてんかん	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	310	先天異常症候群	0
256	筋型糖尿病	0	311	先天性三尖弁狭窄症	0
257	肝型糖尿病	0	312	先天性僧帽弁狭窄症	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	313	先天性肺静脈狭窄症	0
259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0	314	左肺動脈右肺動脈起始症	0
260	シトステロール血症	0	315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0
261	タンジール病	0	316	カルニチン回路異常症	0
262	原発性高カイロミクロン血症	1	317	三頭酵素欠損症	0
263	脳腫黄色腫症	0	318	シトリン欠損症	0
264	無リポタンパク血症	0	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
265	脂肪萎縮症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
266	家族性地中海熱	3	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
267	高IgD症候群	0	322	ケトチオラーゼ欠損症	0
268	中條・西村症候群	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
270	慢性再発性多発性骨髄炎	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
271	強直性脊椎炎	7	326	大理石骨病	0
272	進行性骨化性線維異形成症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0	328	前眼部形成異常	0
274	骨形成不全症	0	329	無虹彩症	0
275	タナトフォリック骨異形成症	0	330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	0

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
331	特発性多中心性キャスルマン病	2	337	ホモシスチン尿症	0
332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0	338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0
333	ハッチソン・ギルフォード症候群	0	339	MECP2重複症候群	0
334	脳クリアチン欠乏症候群	0	340	線毛機能不全症候群(カルタゲナー症候群を含む。)	0
335	ネフロン癆	0	341	TRPV4異常症	0
336	家族性低リポタンパク血症1(ホモ接合体)	0			

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	109
合計患者数(人)	1120

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・感染対策向上加算1
・歯科外来診療環境体制加算	・感染対策向上加算1(指導強化加算)
・歯科診療特別対応連携加算	・患者サポート体制充実加算
・特定機能病院入院基本料(一般7対1)	・重症患者初期支援充実加算
・特定機能病院入院基本料(精神13対1)	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・臨床研修病院入院診療加算	・ハイリスク妊娠管理加算
・救急医療管理加算	・ハイリスク分娩管理加算
・妊産婦緊急搬送入院加算	・術後疼痛管理チーム加算
・診療録管理体制加算1	・後発医薬品使用体制加算3
・医師事務作業補助体制加算1(30対1)	・病棟薬剤業務実施加算1
・急性期看護補助体制加算(25対1)5割以上	・病棟薬剤業務実施加算2
・夜間100対1急性期看護補助体制加算	・データ提出加算2
・夜間看護体制加算	・データ提出加算2(データ提出評価加算)
・看護職員夜間配置加算1(12対1)	・入退院支援加算1
・看護補助加算2	・入退院支援加算(入院時支援加算)
・看護補助体制充実加算	・入退院支援加算(総合機能評価加算)
・療養環境加算	・入退院支援加算3
・重症者等療養環境特別加算	・認知症ケア加算1
・無菌治療室管理加算1	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・無菌治療室管理加算2	・精神疾患診療体制加算
・緩和ケア診療加算	・精神科急性期医師配置加算2のイ
・精神病棟入院時医学管理加算	・地域医療体制確保加算
・精神科身体合併症管理加算	・特定集中治療室管理料6
・精神科リエゾンチーム加算	・特定集中治療室管理料6(早期栄養介入管理加算)
・摂食障害入院医療管理加算	・ハイケアユニット入院医療管理料1
・がん拠点病院加算	・新生児特定集中治療室管理料2
・栄養サポートチーム加算	・総合周産期特定集中治療室管理料 (母体・胎児集中治療室管理料)
・医療安全対策加算1	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・外来栄養食事指導料(注2)	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・遠隔モニタリング加算(ペースメーカー指導管理料)	・在宅経肛門の自己洗腸指導管理料
・糖尿病合併症管理料	・持続血糖測定器加算
・がん性疼痛緩和指導管理料	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・がん患者指導管理料イ、ロ、ハ、ニ	・遺伝学的検査注1に規定する施設基準
・外来緩和ケア管理料	・骨髄微小残存病変量測定
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・BRCA1/2遺伝子検査(血液を検体とするもの)
・糖尿病透析予防指導管理料	・がんゲノムプロファイリング検査
・小児運動器疾患指導管理料	・先天性代謝異常症検査
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・婦人科特定疾患治療管理料	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・腎代替療法指導管理料	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(SARS-CoV-2核酸検出を含まないもの)
・一般不妊治療管理料	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)
・下肢創傷処置管理料	・検体検査管理加算()
・院内トリアージ実施料	・国際標準検査管理加算
・救急搬送看護体制加算1	・遺伝カウンセリング加算
・外来放射線照射診療料	・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・外来腫瘍化学療法診療料1	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・連携充実加算(外来腫瘍化学療法診療料)	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・がん薬物療法体制充実加算(外来腫瘍化学療法診療料)	・胎児心エコー法
・ニコチン依存症管理料	・ヘッドアップティルト試験
・がん治療連携計画策定料	・人工臓器検査
・肝炎インターフェロン治療計画料	・皮下連続式グルコース測定
・薬剤管理指導料	・光トポグラフィー
・医療機器安全管理料1	・神経学的検査
・医療機器安全管理料2	・補聴器適合検査
・医療機器安全管理料(歯科)	・ロービジョン検査判断料
・コンタクトレンズ検査料	・精神科作業療法

・歯科治療時医療管理料	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・在宅患者歯科治療時医療管理料	・医療保護入院等診療料
・在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2	・多血小板血漿処置
・CT透視下気管支鏡検査加算	・イタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)
・有床義歯咀嚼機能検査、咀嚼能力検査及び咬合圧検査	・イタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)
・精密触覚機能検査	・人工腎臓
・画像診断管理加算2	・導入期加算3及び腎代替療法実績加算
・ポジトロン断層撮影、ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影若しくはポジトロン断層・磁気共鳴コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)又は乳房用ポジトロン断層撮影	・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
・CT撮影及びMRI撮影	・下肢末梢動脈疾患指導管理加算
・冠動脈CT撮影加算	・小児食物アレルギー負荷検査
・血流予備量比コンピューター断層撮影	・センチネルリンパ節生検(片側)1,2
・心臓MRI撮影加算	・CT透視下気管支鏡検査加算
・乳房MRI撮影加算	・有床義歯咀嚼機能検査、咀嚼能力検査及び咬合圧検査
・小児鎮静下MRI撮影加算	・前立腺針生検法(MRI撮影及び超音波検査融合画像によるもの)
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白症状を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレーシス療法
・外来化学療法加算1	・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
・無菌製剤処理科	・歯科技工士連携加算1及び光学印象歯科技工士連携加算

・心大血管疾患リハビリテーション料()	・歯科技工士連携加算2
・脳血管疾患等リハビリテーション料()	・人工臓器療法
・運動器リハビリテーション料()	・CAD / CAM冠及びCAD / CAMインレー
・呼吸器リハビリテーション料()	・有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算
・摂食嚥下機能回復体制加算2(摂食機能療法)	・皮膚悪性腫瘍切除術(センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)
・がん患者リハビリテーション料	・皮膚移植術(死体)
・歯科口腔リハビリテーション料2	・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)
・救急患者精神科継続支援料	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。)))
・認知療法・認知行動療法	・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)
・椎間板内酵素注入療法	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術及び胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腫瘍脊椎骨全摘術	・気管支バルブ留置術
・緊急穿頭血腫除去術	・胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除又は1肺葉を超えるものに限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除、肺葉切除又は1肺葉を超えるもので、内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び膣腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)(高速回転式経皮経管アテレクトミーカテーテルによるもの)

・舌下神経電気刺激装置植込術	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)(アテローム切除アブレーション式血管形成術用カテーテルによるもの)
・角結膜悪性腫瘍切除手術	・不整脈手術 左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・経皮的中隔心筋焼灼術
・緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工中耳植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術(型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの))	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。) 鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。) (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)	・補助人工心臓
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)	・腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術	・腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術	・腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法	・バルーン閉塞下経静脈的塞栓術
・乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。)	・体外衝撃波胆石破碎術
・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))	・腹腔鏡下肝切除術

・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・生体部分肝移植術
・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術及び腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術及び胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	・外来放射線治療加算
・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)	・高エネルギー放射線治療
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・1回線量増加加算
・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・強度変調放射線治療(IMRT)
・同種死体腎移植術	・画像誘導放射線治療加算 (IGRT)
・生体腎移植術	・体外照射呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・定位放射線治療
・腹腔鏡下仙骨腔固定術	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・保険医療機関間の連携による病理診断
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診
・胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)	・病理診断管理加算
・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術に限る。)	・口腔病理診断管理加算

・輸血管管理料	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・輸血適正使用加算	・歯科矯正診断料
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。)の手術前後における歯科矯正に係るもの)
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	・外来・在宅ベースアップ評価料()
・歯周組織再生誘導手術	・入院ベースアップ評価料
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	
・麻酔管理料()	
・麻酔管理料()	
・放射線治療専任加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・LDLアフェレシス療法	・
・MRI撮影及び超音波検査融合画像に基づく前立腺針生検法	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二 年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	35回	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	11例
	剖検率(%)	4.30%

注) 1 「臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況」欄については、選択肢の1・2どちらかを選択する(で囲む等)こと。

(注) 2 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
生活習慣病の新規概念「毒性終末糖化産物(Toxic AGEs)原因説」の確立	竹内 正義	先端医療研究領域	7,000,000	補委 日本学術振興会
銀河中心ブラックホールの精密観測に向けた重力波理論波形の構築	佐合 紀親	一般教育機構	900,000	補委 日本学術振興会
におい刺激、無刺激が認知、情動ならびに嗅覚機能に及ぼす影響	三輪 高喜	耳鼻咽喉科学	3,900,000	補委 日本学術振興会
細胞ストレスと炎症の発現の研究から迫る「疲労」メカニズムの分子細胞生物学的な解明	岩脇 隆夫	生命科学研究領域	3,900,000	補委 日本学術振興会
放射線誘発アポトーシス細胞に見られる細胞膜表面へのヌクレオソーム露出の機序解明	岩淵 邦芳	生化学	3,600,000	補委 日本学術振興会
新規顆粒球/単球前駆細胞の同定と骨髄球系細胞分化経路の解明	小内 伸幸	免疫学	4,400,000	補委 日本学術振興会
胎生期母体炎症暴露による急性肝細胞壊死の素因形成機構の解明	八田 稔久	解剖学	6,600,000	補委 日本学術振興会
身体不活動による痛みシグナル誘発・変調機構の解明と応用	大道 裕介	解剖学	7,400,000	補委 日本学術振興会
運動ホルモンによる内臓自律神経反射の意義と肥満改善への応用	谷田 守	生理学	4,600,000	補委 日本学術振興会
新技術「選択的低压式穿刺吸引細胞診(SLOP-FNAC)」の安全評価と改良研究	辻 裕之	頭頸部外科学	500,000	補委 日本学術振興会
療養場所別にみた、認知症の程度の進行に伴う概日リズムの変化	寺西 敬子	看護学部	200,000	補委 日本学術振興会
非造影CT画像における乳癌術後リンパ浮腫の予測ツールの開発	浅野 きみ	看護学部	1,200,000	補委 日本学術振興会
救急医療における延命治療の代理意思決定支援ツールの開発	清水 玲子	看護学部	600,000	補委 日本学術振興会
男性看護師向けジェンダー問題対応実践力獲得教育プログラム開発	杉森 千代子	看護学部	500,000	補委 日本学術振興会
机うつせ寝枕使用の午睡を取り入れた高校生版睡眠教育プログラムの開発と検証	中島 素子	衛生学	1,100,000	補委 日本学術振興会
コーヒーによる非アルコール性脂肪肝関連肝細胞癌の予防メカニズム	利國 信行	肝胆膵内科学	100,000	補委 日本学術振興会
大腸炎関連発癌に関与するコピキチリガーゼUBR4の生理学的機能とその分子機構	田崎 隆史	生命科学研究領域	800,000	補委 日本学術振興会
In silico解析による致死性不整脈トリガーの発生機序解明	津元 国親	生理学	600,000	補委 日本学術振興会
血小板膜におけるスフィンゴミエリンを介したリン脂質露呈制御機構の解明	谷口 真	生命科学研究領域	600,000	補委 日本学術振興会
胎生期樹状細胞の疾患制御機構の解明	齋藤 史路	免疫学	1,000,000	補委 日本学術振興会
CRISPRスクリーニングで同定したサフォードウイルス受容体候補遺伝子の機能解析	大桑 孝子	微生物学	800,000	補委 日本学術振興会
高齢者睡眠時無呼吸症候群における脳虚血等の病態解明	大黒 正志	高齢医学	1,000,000	補委 日本学術振興会
社会的ストレスによる多面的攻撃性増強の神経機序解明	山本 亮	生理学	900,000	補委 日本学術振興会
統合失調症治療薬としての抗酸化ストレス作用を有する新規化合物の有効性	上原 隆	精神神経科学	1,100,000	補委 日本学術振興会
脂肪幹細胞付きシートによる肝線維化改善の分子機構の解明	尾崎 一晶	肝胆膵内科学	1,000,000	補委 日本学術振興会
高度石灰化冠動脈病変を標的とした新規メタボライトの探索	赤尾 浩慶	循環器内科学	600,000	補委 日本学術振興会
日本人におけるスタチン完全不耐の分子メカニズム	梶波 康二	循環器内科学	400,000	補委 日本学術振興会
脂肪幹細胞を用いた唾液腺機能の回復-ドライマウスに対する細胞治療法の開発	河南 崇典	血液免疫内科学	600,000	補委 日本学術振興会
IgG4関連疾患の病態形成におけるTRPチャネルの意義と新規治療ターゲットの開発	山田 和徳	血液免疫内科学	700,000	補委 日本学術振興会
敗血症における血管内皮細胞で産生されるsFlt-1の役割の解明	池田 崇之	生化学	900,000	補委 日本学術振興会
変形性膝関節症に対するLipogems処理脂肪組織の治療効果の解明	川原 範夫	整形外科	300,000	補委 日本学術振興会
低酸素刺激とガレクチンファミリーによる胎盤栄養膜細胞の分化制御機構	東海林 博樹	一般教育機構	1,000,000	補委 日本学術振興会
異嗅症の嗅覚刺激療法と嗅細胞機能イメージングとの融合	志賀 英明	耳鼻咽喉科学	700,000	補委 日本学術振興会
ヨウ素処理による抗菌性を付与した新しいチタンデバイスの開発	中野 旬之	顎口腔外科学	1,100,000	補委 日本学術振興会
Nrf2活性化によるM2マクロファージ分化制御機構を介したBRONJ病態の制御	和田 悟史	顎口腔外科学	1,000,000	補委 日本学術振興会
心不全パンデミック抑制を目指した電子聴診器およびクラウドによる聴診指導法の開発	八木 邦公	医学教育学	900,000	補委 日本学術振興会

小計25件

青壮年期の生活習慣・ライフイベントの疫学的関連に基づいた生活習慣病予防法の開発	櫻井 勝	衛生学	400,000	補委	日本学術振興会
筋損傷マーカーおよび体液調節因子の解析による致死的低体温症の新たな評価基準の確立	竹下 裕史	法医学	600,000	補委	日本学術振興会
ビジュアルナラティブアプローチによる保護室の看護ケアの効果検証	長山 豊	看護学部	1,200,000	補委	日本学術振興会
「家族から地域へ拡張した異世代間の子育て支援プログラム」の開発	三反崎 宏美	看護学部	600,000	補委	日本学術振興会
在宅・分散避難に対応した「乳幼児のニーズに応える災害備蓄アプリ」の開発	山崎 智里	看護学部	1,000,000	補委	日本学術振興会
訪問看護業務におけるICT機器活用スキル尺度と教育プログラム開発・効果検証	前田 修子	看護学部	700,000	補委	日本学術振興会
中鎖脂肪酸と巻苔併用に着眼した認知症高齢者のサルコペニアの嚥下障害予防の効果検証	蘭 直美	看護学部	400,000	補委	日本学術振興会
入浴ケア時の感染対策のあり方の検討 感染防護具装着時の援助者の生理的反応から	橋本 智江	看護学部	100,000	補委	日本学術振興会
運動習慣による病的疼痛の予防効果の検証とその機序の解明	大道 美香	解剖学	600,000	補委	日本学術振興会
自発運動と強制運動がアルツハイマーモデル動物の認知脳機能に与える影響の研究	山木 幸子	生理学	1,000,000	補委	日本学術振興会
毎日の食生活により徐々に蓄積される毒性終末糖化産物に対する除去機構の解明	逆井 亜紀子	先端医療研究領域	1,000,000	補委	日本学術振興会
心筋細胞に毒性終末糖化産物が生成・蓄積して引き起こされる細胞障害の機序は何か？	高田 尊信	生命科学研究領域	800,000	補委	日本学術振興会
転写ストレスが引き起こすDNA二本鎖切断と細胞応答	逆井 良	生化学	1,200,000	補委	日本学術振興会
ホールマウント多重染色標本を用いた組織構築の定量的解析	坂田 ひろみ	解剖学	1,100,000	補委	日本学術振興会
新自由主義体制下における統治性とトランスヒューマニズム運動の動向についての研究	本田 康二郎	一般教育機構	600,000	補委	日本学術振興会
解剖体データに基づく古人骨の肩幅と胸郭サイズの推定	加賀谷 美幸	解剖学	400,000	補委	日本学術振興会
がんサバイバーの気持ちのつらさや孤独感を緩和する社会的ケアに関する研究	久村 和穂	公衆衛生学	900,000	補委	日本学術振興会
医療専門職学生に対するInterprofessional-OSCEの開発と実践	西川 正志	医学教育学	200,000	補委	日本学術振興会
腸管神経発生における細胞間シグナル伝達によるRet受容体シグナルの調節	安井 良僚	小児外科学	1,400,000	補委	日本学術振興会
蛍光アセチルコリンセンサーによる細胞内コリン伝達系の実証	宇和田 淳介	薬理学	1,300,000	補委	日本学術振興会
分岐解析によるヒト心筋細胞モデルデータベース構築と心臓自動能発生機序の統合的解明	倉田 康孝	生理学	600,000	補委	日本学術振興会
メカノセンサーPiezo1-JunBシグナルが制御する血管リモデリング機構の解明	吉富 泰央	生化学	900,000	補委	日本学術振興会
TIM-3結合ペプチドを用いたCD169マクロファージによる抗腫瘍免疫機構の解明	小屋 照継	再生医療学	1,300,000	補委	日本学術振興会
脊髄損傷におけるKLK8- NRG1- ErbBシグナルの作用機序	宇和田 瞳	薬理学	1,400,000	補委	日本学術振興会
塩化ラジウムによる去勢抵抗性前立腺癌骨転移治療の画像評価	井口 太郎	泌尿器科学	1,200,000	補委	日本学術振興会
ペプチド受容体放射線療法によるリンパ球の放射性組織障害に関する研究	渡邊 直人	放射線医学	1,000,000	補委	日本学術振興会
結節性硬化症の超早期治療介入のための神経・精神症状重症度予測バイオマーカーの同定	新井田 要	先端医療研究領域	1,700,000	補委	日本学術振興会
消化管上皮の発生・分化原理の理解に基づく化生発症メカニズムの解明	森 健太郎	脳神経内科学	1,100,000	補委	日本学術振興会
動脈硬化症の病態を進行させる小胞体ストレス応答分子IRE1が担う新たな役割の解明	赤井 良子	生命科学研究領域	1,000,000	補委	日本学術振興会
粘膜悪性型HPV感染による爪部ポーエン病発症機序と新たなHPV感染経路の解明	清水 晶	皮膚科学	600,000	補委	日本学術振興会
TAFRO症候群および多中心性Castleman病のバイオマーカー探索	正木 康史	血液免疫内科学	1,000,000	補委	日本学術振興会
腸管神経発生の分子メカニズムからヒルシュスプルング病の病態をひもとく	岡島 英明	小児外科学	1,900,000	補委	日本学術振興会
スキルス増殖特異活性化シグナルを標的とした胃癌標的治療法の開発	安本 和生	腫瘍内科学	1,100,000	補委	日本学術振興会
選択的スフィンゴミエリン合成酵素2阻害薬の肝臓外科領域への応用に向けた基礎的研究	高村 博之	一般・消化器外科学	1,000,000	補委	日本学術振興会
術後感染の予防を目的とした安全性の高いフッ素加工抗菌インプラントの確立	藤井 正文	整形外科	1,400,000	補委	日本学術振興会
超音波ドブラ法による甲状腺性腫瘍の良悪性鑑別への血管病理学的アプローチ	川上 理	頭頸部外科学	1,000,000	補委	日本学術振興会
におい刺激でアルツハイマー情動症状は軽減できるか	加藤 伸郎	生理学	1,000,000	補委	日本学術振興会
メトフォルミンとヒドララジンによる老視と白内障抑制機構の解明	久保 江理	眼科学	1,100,000	補委	日本学術振興会
脂肪幹細胞シートを用いた難治性放射線潰瘍の治療確立にむけた研究	金子 貴芳	形成外科学	1,500,000	補委	日本学術振興会
職業性ストレス変化に伴う耐糖能への影響	石崎 昌夫	衛生学	900,000	補委	日本学術振興会

小計27件

小児を対象とした眼鏡・サングラスの使用による近視への影響(縦断的調査)	初坂 奈津子	眼科学	700,000	補委	日本学術振興会
看護師によるエコーを用いた経鼻胃管の確認方法の確立とその効果	直井 千津子	看護学部	600,000	補委	日本学術振興会
高齢者施設における転倒予防介入及び組織体制質指標の開発	平松 知子	看護学部	600,000	補委	日本学術振興会
学童期における体力差に配慮した小学校体育ボールゲームの指導プログラムの開発	津田 龍佑	一般教育機構	1,200,000	補委	日本学術振興会
アルコール性肝障害の進展に関する2種の終末糖化産物と生体内抗酸化能に関する検討	福村 敦	肝胆膵内科学	1,000,000	補委	日本学術振興会
コラーゲン・トリペプチドの血管保護作用の機序解明と疾病に対する予防治療効果の検証	高辻 英仁	生化学	700,000	補委	日本学術振興会
DNA修復蛋白質53BP1によるCD47クラスター形成とがん細胞貪食機構の解明	砂谷 優実	生化学	900,000	補委	日本学術振興会
脱ユビキチン化酵素USP10が支配するDNA修復機構の解明	宇谷 公一	微生物学	1,200,000	補委	日本学術振興会
蚊媒介感染症に対する水際対策及び予兆検知に必要な基礎データの北陸地方での収集	村上 学	医動物学	800,000	補委	日本学術振興会
地域住民の医療・保健・福祉に携わる医療従事者を育てる、哲学・社会科学の教育の開発	菊地 建至	一般教育機構	500,000	補委	日本学術振興会
異なる2つの多能性幹細胞の分化能を制御するエピジェネティックバリアーの解明	浦 大樹	先端医療研究領域	1,300,000	補委	日本学術振興会
生理的低酸素による抑制性神経の多様化機構	酒井 大輔	一般教育機構	1,400,000	補委	日本学術振興会
末梢血単核球を用いた樹状細胞ワクチンのがん治療予測マーカーの同定と制御機構の解明	剛 美紗	再生医療学	1,400,000	補委	日本学術振興会
高齢認知障害における孤立化防止効果のメカニズム解明と治療応用	神田 享勉	地域医療学	1,700,000	補委	日本学術振興会
患者血液由来全長cDNAを用いた新規オンデマンド遺伝子検査法の確立とその評価	剛 澄仁	先端医療研究領域	700,000	補委	日本学術振興会
スポロリキン反応のメカニズム解明と新規スポロリココース診断システムの開発	安澤 数史	皮膚科学	1,100,000	補委	日本学術振興会
ヒルシュブルグ病における神経再生を促す因子の探索と治療への応用	吉崎 尚良	小児外科学	700,000	補委	日本学術振興会
虚血肢に対するゲル化Perifascial areolar tissue(PAT)移植による血管誘導	岸邊 美幸	形成外科学	1,500,000	補委	日本学術振興会
Hedgehogシグナル系を介する肺癌の癌幹細胞化および治療抵抗性獲得の病態解明	本野 望	呼吸器外科学	1,700,000	補委	日本学術振興会
抗老化遺伝子KlothoのTGF- β を介した肺扁平上皮癌機能調節と治療開発のための基礎研究	飯島 慶仁	呼吸器外科学	1,100,000	補委	日本学術振興会
糖尿病治療薬SGLT2阻害剤による肺腺癌制御メカニズムの解明	小山 倫浩	呼吸器外科学	1,300,000	補委	日本学術振興会
婦人科がんでの蛍光アプタマーを応用した表面抗原非依存的な血中循環腫瘍細胞検出	高倉 正博	産科婦人科学	1,400,000	補委	日本学術振興会
低濃度抗癌剤による癌細胞の動態変化とエクソソームの変化について	石坂 智	頭頸部外科学	1,200,000	補委	日本学術振興会
小児覚醒下ABR検査を可能とするワイヤレス記録システムの構築	木下 裕子	耳鼻咽喉科学	1,200,000	補委	日本学術振興会
Perifascial areolar tissue (PAT) 由来組織幹細胞を利用した細胞治療の確立	宮永 亨	形成外科学	1,000,000	補委	日本学術振興会
糖尿病腎症患者における経験学習プロセス評価項目の開発と療養行動改善への効果の検証	松井 希代子	看護学部	1,200,000	補委	日本学術振興会
育児と親の介護を担うダブルケアラーの抱える課題と支援体制の実態	杉山 希美	看護学部	1,900,000	補委	日本学術振興会
細胞内架橋分子Plectinの放射線誘発DNA損傷応答における新規機能の解明	松井 理	生化学	1,200,000	補委	日本学術振興会
周産期ダイオキシン曝露の骨と歯の発達に与える影響に関する出生コホート研究	瀧口 知彌	公衆衛生学	3,000,000	補委	日本学術振興会
ミトコンドリアで生じる早期の機能的ストレスを可視化するモデルマウス開発	岩脇 隆夫	生命科学研究領域	2,000,000	補委	日本学術振興会
遺伝的不安定性による変異蓄積量を標的とした新規抗がん剤シーズの開発	石垣 靖人	生命科学研究領域	2,400,000	補委	日本学術振興会
腸管神経系の成熟における細胞外マトリクスの役割	西田 翔一	小児外科学	1,100,000	補委	日本学術振興会
統合失調症における社会機能障害の遺伝的連続性の解明	嶋田 貴充	精神神経科学	1,100,000	補委	日本学術振興会
尿中SMPDL3bを指標とした原発性ネフローゼ症候群診療指針の確立	藤本 圭司	腎臓内科学	1,400,000	補委	日本学術振興会
腎移植患者における血清アディポネクチンおよびエクソソームと血管石灰化との関連	野村 佳苗	腎臓内科学	1,000,000	補委	日本学術振興会
DNA損傷から解明する移植後腎機能発現遅延の病態	岡田 圭一郎	腎臓内科学	1,000,000	補委	日本学術振興会
FAM114A1の膜性腎症の病態形成機序における役割の解明	林 憲史	腎臓内科学	700,000	補委	日本学術振興会
肝類洞閉塞性症候群における血小板凝集に着目した新規バイオマーカーの探索	宮田 隆司	一般・消化器外科学	1,100,000	補委	日本学術振興会
Lipogems処理脂肪組織による変形性膝関節症の治療効果因子のメタボローム解析	平田 寛明	整形外科	700,000	補委	日本学術振興会
Peroxioredoxin6の角膜上皮障害とドライアイにおける保護効果の解明	柴田 哲平	眼科学	1,100,000	補委	日本学術振興会

小計27件

小計27件

メンタルヘルス不調を抱える看護師への所属部署で行う就労継続支援モデルの開発と評価	大江 真人	看護学部	500,000	補委	日本学術振興会
注意欠陥多動性障害の神経動態:行動・ドーパミン・神経活動の同時計測による解明	古山 貴文	生理学	1,500,000	補委	日本学術振興会
糖尿病腎症における自律神経系-免疫系の役割	向井 清孝	腎臓内科学	1,100,000	補委	日本学術振興会
慢性腎臓病患者のサルコペニアにおける小胞体ストレスとアディポネクチンの関与	足立 浩樹	腎臓内科学	400,000	補委	日本学術振興会
コラーゲンの切断産物エンドトロフィンが糸球体内皮DNA損傷と腎線維化をつなぐ因子	藤井 愛	腎臓内科学	1,100,000	補委	日本学術振興会
MALDI-TOF MS(質量分析器)による黒色真菌迅速同定	二ツ谷 剛俊	皮膚科学	600,000	補委	日本学術振興会
肝インスリン抵抗性におけるRho family GTPase 2の病的意義の解明	嶋山 文華	糖尿病・内分泌内科学	1,100,000	補委	日本学術振興会
滑液との生体相互作用に着目した脂肪由来幹細胞を用いた膝OAの新規治療法の開発	福 淳史	整形外科	1,100,000	補委	日本学術振興会
尿路結石形成とTAGEの関係、肝腎臓臓器連環の探索	井上 慎也	泌尿器科学	700,000	補委	日本学術振興会
脂肪幹細胞は加齢性嗅覚低下、認知症の進行を予防できるか?	石倉 友子	耳鼻咽喉科学	900,000	補委	日本学術振興会
がん薬物療法副作用における角膜神経の興奮異常が眼症状に及ぼす影響	清井 武志	薬理学	1,200,000	補委	日本学術振興会
I2型糖尿病患者の空腹感の捉え方質問紙を活用した食事療法支援プログラムの開発	金松 瑞代	看護学部	1,000,000	補委	日本学術振興会
早期腎症期(第2期)にある糖尿病患者に対する透析予防指導プログラムの開発	宮崎 彩乃	看護学部	700,000	補委	日本学術振興会
心筋虚血再灌流障害時の肥満細胞脱顆粒に対する脂肪由来幹細胞エクソソームの抑制効果	坂本 卓弥	共同利用センター	1,400,000	補委	日本学術振興会
脱ユビキチン化酵素USP10による炎症性サイトカイン産生制御機構の解明	望月 恒太	医動物学	1,200,000	補委	日本学術振興会
子宮頸部擦過検体からシングルセル解析を用いるHPV特異的T細胞の同定法の開発	柴田 健雄	産科婦人科学	1,400,000	補委	日本学術振興会
抗酸化能を高めたN-acetylcysteineによる老視と白内障抑制機構の解明	石田 秀俊	眼科学	1,100,000	補委	日本学術振興会
患者と医療職者で創生する局所陰圧閉鎖療法のケアガイドの開発・評価	宮永 葵子	看護学部	900,000	補委	日本学術振興会
In silico解析を活用したEGFRシグナル非依存的な肺がん幹細胞の新規治療標的の探索	堀江 哲寛	生命科学領域	1,100,000	補委	日本学術振興会
病気を抱える人の強みやレジリエンスを引き出し、共同意思決定する看護を体験しよう!	長山 豊	看護学部	290,000	補委	日本学術振興会
からだを透かして見てみよう - 透明人間できるかな? - 2023	八田 稔久	解剖学	500,000	補委	日本学術振興会
キャッスルマン病、TAFRO症候群、類縁疾患の診療ガイドラインの策定や更なる改良に向けた国際的な総意形成を踏まえた調査研究	正木 康史	血液免疫内科学	150,000	補委	厚生労働省
キャッスルマン病、TAFRO症候群、類縁疾患の診療ガイドラインの策定や更なる改良に向けた国際的な総意形成を踏まえた調査研究	山田 壮亮	臨床病理学	150,000	補委	厚生労働省
キャッスルマン病、TAFRO症候群、類縁疾患の診療ガイドラインの策定や更なる改良に向けた国際的な総意形成を踏まえた調査研究	石垣 靖人	総合医学研究所	150,000	補委	厚生労働省
自己免疫疾患に関する調査研究	正木 康史	血液免疫内科学	200,000	補委	厚生労働省
オールジャパン体制によるIgG4関連疾患の診断基準並びに診療指針の確立を目指す研究	山田 和徳	血液免疫内科学	500,000	補委	厚生労働省
特発性大腿骨頭壊死症の確定診断と重症度判定の向上に資する大規模多施設研究	兼氏 歩	整形外科	100,000	補委	厚生労働省
難治性腎障害に関する調査研究	古市 賢吾	腎臓内科学	300,000	補委	厚生労働省
神経免疫疾患領域における難病の医療水準と患者のQOL向上に資する研究	中西 恵美	脳神経内科学	400,000	補委	厚生労働省
発汗異常を伴う稀少難治療性疾患の治療指針作成、疫学調査の研究	朝比奈 正人	脳神経内科学	500,000	補委	厚生労働省
プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究	濱口 毅	脳神経内科学	1,000,000	補委	厚生労働省
プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究班	濱口 毅	脳神経内科学	800,000	補委	厚生労働省
診療所及び高齢者施設を対象とする効率的・効果的な薬剤耐性菌制御手法の確立のための研究	飯沼 由嗣	臨床感染症学	1,000,000	補委	厚生労働省
循環器疾患及び糖尿病、COPD等の生活習慣病の個人リスク及び集団リスクの評価ツールの開発と応用のための研究	櫻井 勝	衛生学	800,000	補委	厚生労働省
がん統計を活用した、諸外国とのデータ比較に基づく日本のがん対策の評価のための研究	西野 善一	公衆衛生学	650,000	補委	厚生労働省
介護・福祉・在宅医療現場における関節リウマチ患者支援に関する研究	松下 功	リハビリテーション医学	100,000	補委	厚生労働省
心筋症に対する遺伝子治療効果の予測手法の開発と実証	西園 啓文	総合医学研究所	1,000,000	補委	日本医療研究開発機構
高齢発症関節リウマチ患者の健康寿命延伸を目指した治療戦略の確立	松下 功	リハビリテーション医学	200,000	補委	日本医療研究開発機構
統合レジストリを活用したキャッスルマン病・TAFRO症候群における精密医療基盤の構築を目指す実用化研究	正木 康史	血液免疫内科学	400,000	補委	日本医療研究開発機構
遺伝子発現制御機構の開発によるRett症候群及びMECP2重複症候群の遺伝子治療開発	西園 啓文	総合医学研究所	6,000,000	補委	日本医療研究開発機構

小計27件

SOD1変異ALSに対する遺伝子編集治療法の開発	加藤 友久	総合医学研究所	1,000,000	補委	日本医療研究開発機構
機能性オルガノイドを用いた運動ニューロン疾患遺伝子治療薬スクリーニング系の確立	加藤 友久	総合医学研究所	500,000	補委	日本医療研究開発機構
単一細胞解析技術の統合によるHPV18型幹細胞発癌機構の解明	星 大輔	病理学	2,000,000	補委	日本医療研究開発機構
神通川カドミウム汚染流域の土壌汚染改善後のカドミウム体内蓄積量と健康影響	櫻井 勝	衛生学	1,306,373	補委	株式会社オーエムシー(環境省)
ミリ波・テラヘルツ波による眼部及び皮膚の障害閾値の究明	佐々木 洋	環境原性視覚病態研究	18,232,000	補委	総務省
Ex vivo 筋層培養系の確立による大腸癌浸潤メカニズム解析	星 大輔	病理学	400,000	補委	日本私立学校振興・共済事業団
がんの地理情報の総合的活用に関する研究	西野 善一	公衆衛生学	200,000	補委	国立がん研究センター
革新リコンビナーゼを用いたゲノム改変	西園 啓文	総合医学研究所 共同利	6,000,000	補委	国立研究開発法人科学技術振興機構
角膜神経を介した眼不快感の制御機構解明とアセチルコリン受容体、喫煙との関係	益岡 尚由	薬理学	2,000,000	補委	(公財)喫煙科学研究財団
食物アレルギーに関わる神経-免疫系も機序解明と軽減手法確立への挑戦	谷田 守	生理学	1,000,000	補委	(公財)ニッポンハム食の未来財団
ヒト乳頭腫ウイルス(HPV)による爪部皮膚癌の発症機序解明-爪を介した新たなハイリスクHPV感染ルートの探索-	清水 晶	皮膚科学	1,000,000	補委	(公財)北國がん基金
トランスポーターを標的とした新しいがん治療の可能性を拓く	宇和田 淳介	薬理学	1,000,000	補委	(公財)北國がん基金
外科手術後に生じた顔面神経麻痺患者の生活上の困難と必要な看護支援-ミックス・メソッド・リサーチの手法を用いて-	宮永 葵子	看護学部 基礎看護学	500,000	補委	(公財)北國がん基金
HPVワクチン教育担当者育成モデルプログラムの開発	北濱 まさみ	看護学部 母性看護学	2,000,000	補委	MSD株式会社
特定波長光照射によるウシ精子活性化法の開発と肉用牛生産現場への応用	西園 啓文	総合医学研究所 共同利	3,000,000	補委	(公財)ロッテ財団
皮膚疾患におけるヒト乳頭腫ウイルス感染の病態解明と新規検出法の確立	清水 晶	皮膚科学	3,000,000	補委	(公財)滋谷学術文化スポーツ振興財団
新型コロナウイルス感染による緊急造血応答の分子機序解明	齋藤 史路	免疫学	3,000,000	補委	(公財)滋谷学術文化スポーツ振興財団
ICTを活用した連携施設合同型NSTシステム構築を目指して	岡本 浩一	一般・消化器外科学	500,000	補委	(公財)橋勝会すこやか健康応援団
solute carrier family 28 member 1 による肝実質とインスリン感受性調節機構の解明	熊代 尚記	糖尿病・内分泌内科学	2,000,000	補委	日本イーライリリー株式会社
新規GLP-1受容体作動薬セマグルチドの骨格筋量ならびに治療関連QOLに対する影響:ランダム化比較試験による検証	竹田 安孝	糖尿病・内分泌内科学	3,000,000	補委	(公財)臨床薬理研究振興財団
炎症性腸疾患におけるマクロファージ鉄代謝機構解明と治療方法	小内 伸幸	免疫学	2,000,000	補委	(公財)テルモ生命科学振興財団
ストレスによる中枢神経系の異常に焦点をあてたドライアイの発症原因の究明	益岡 尚由	薬理学	2,000,000	補委	公益信託参天製薬創業者記念眼科医学研究基金
Regulatory mechanisms of SLE pathogenesis via age-related disturbances in hormone balance and lipid homeostasis.	小林 周平	免疫学	2,500,000	補委	(公財)神澤医学研究振興財団
母体の脂質恒常性を介した、子のアレルギー疾患制御の根底にあるメカニズムの解明	小林 周平	免疫学	500,000	補委	(公財)ホーユー科学財団
がん抗原WT1特異的T細胞受容体を遺伝子導入したT細胞の開発	小屋 照継	再生医療学	1,000,000	補委	(公財)喜・榮・音興支援財団
注意欠陥多動性障害の発症に関わる神経機構の解明	古山 貴文	生理学	2,000,000	補委	(公財)加藤記念バイオサイエンス振興財団
縫線核ドーパミン神経による疼痛制御の神経機構	古山 貴文	生理学	1,500,000	補委	(公財)中富健康科学振興財団
脳画像をもちいた統合失調症における生物学的特徴の解析	大畑 郁乃	精神神経科学	500,000	補委	公益信託松原三郎記念精神医学育成基金
口腔がんの画像診断AIにおける背景バイアス問題の解決、および生成AI導入の可能性を探る	見立 英史	顎口腔外科学	3,000,000	補委	(公財)G-7奨学財団

小計27件

計 185 件

(注) 1国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
3「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Iijima Y, Iwai S, Moto no N, et al.	呼吸器外科	Tension pyopneumothorax caused by parvimonas micra: a case report	J Cardiothorac Surg. 2023 May 17;18(1):182	Case report
2	Iijima Y, Mizoguchi T, Ishikawa M, et al.	呼吸器外科	Impacts of perioperative hyponatremia relevant to outcomes and prognosis of non-small cell lung cancer in octogenarians	Surgery. 2023 Jun;173(6):1476-1483	Original Article
3	Moto no N, Mizoguchi T, Ishikawa M, et al.	呼吸器外科	The Utility of SUVmax as an Adaptation Criterion for Limited Resection in Stage IA Non-Small Cell Lung Cancer	Oncology. 2023;101(8):473- 480	Original Article
4	Kaneuji A, Chen M, Takahashi E, et al.	整形外科	Collarless Polished Tapered Stems of Identical Shape Provide Differing Outcomes for Stainless Steel and Cobalt Chrome: A Biomechanical Study	J Funct Biomater. 2023 May 9;14(5):262	Original Article
5	Ichiseki T, Shimasaki M, Ueda S, et al.	整形外科	Efficacy of Rectal Systemic Administration of Mesenchymal Stem Cells to Injury Sites via the CXCL12/CXCR4 Axis to Promote Regeneration in a Rabbit Skeletal Muscle Injury Model	Cells . 2023 Jun 27;12(13):1729	Original Article
6	Kitajima H, Ichiseki T, Kaneuji A, et al.	整形外科	A Case of Axillary Web Syndrome Caused by Venous Blood Sampling	Healthcare (Basel). 2023 Aug 25;11(17):2390	Case report
7	Ushimoto T, Murasaka K, Wato Y, et al.	救命救急科	Associations between prehospital defibrillation and outcomes of out-of-hospital cardiac arrests presumed to be caused by hypothermia: A nationwide observational study with epidemiological analysis	Medicine (Baltimore). 2023 Apr 25;102(17):e33618	Original Article
8	Ushimoto T, Morita H, Wato Y, et al.	救命救急科	Association of Dispatcher-Assisted Compression- Only Resuscitation with Survival Rate in Unwitnessed Out-of-Hospital Cardiac Arrest: A Temporal Trend and Analyses of 8-Years Trend	J Kanazawa Med Univ 48(1):33-42 2023	Original Article
9	Ushimoto T, Yao S, Nunokawa C, et al.	救命救急科	Association between the COVID-19 pandemic in 2020 and out-of-hospital cardiac arrest outcomes and bystander resuscitation efforts for working-age individuals in Japan: a nationwide observational and epidemiological analysis	Emerg Med J. 2023 Aug;40(8):556-563	Original Article
10	Futatsuya T, Anzawa K, Mochizuki T, et al.	皮膚科	Trichophyton tonsurans Infection; Diagnosis Molecular Epidemiology, Drug Susceptibility and Infection Control	Med Mycol J. 2023;64(3):49- 54	Review
11	Mochizuki T, Futatsuya T, Anzawa K, et al.	皮膚科	Multilocus Microsatellite Analysis of the Molecular Epidemiology of Microsporium canis Isolated in Japan	Med Mycol J. 2023;64(3):63- 72	Review
12	Ono H, Yamaguchi R, Arai M, et al.	皮膚科	Schimmelpenning-Feuerstein-Mims syndrome induced by HRAS Gly12Ser somatic mosaic mutation: Case report and literature review	J Dermatol. 2023 Sep;50(9):1213-1215	Original Article
13	Ura H, Togi S, Ozaki M, et al.	ゲノム医療センター	Establishment of a human induced pluripotent stem cell line, KMUGMCI007-A, from a patient with proliferase deficiency (PD) bearing homozygous in- frame mutation in the PEPD gene	Stem Cell Res. 2023 Jun;69:103075	Original Article
14	Ura H, Togi S, Ozaki M, et al.	ゲノム医療センター	Establishment of human induced pluripotent stem cell lines, KMUGMCI006, from a patient with Tuberous sclerosis complex (TSC) bearing mosaic nonsense mutations in the Tuberous sclerosis complex 2 (TSC2) gene	Stem Cell Res. 2023 Aug;70:103129	Original Article
15	Ura H, Togi S, Niida Y	ゲノム医療センター	Target-capture full-length double-stranded cDNA long-read sequencing through Nanopore revealed novel intron retention in patient with tuberous sclerosis complex	Front Genet. 2023 Sep 27;14:1256064.	Original Article

16	Miyata T, Nishiki H, Shinden Y, et al.	一般・消化器外科	Recurrent malignant peritoneal mesothelioma treated by a second resection: A case report	Clin Case Rep. 2023 May 18;11(5):e7383	Case report
17	Miyata T, Nishiki H, Shinden Y, et al.	一般・消化器外科	A case of anaplastic carcinoma of the pancreas with intrasplenic huge mass formation	J Surg Case Rep. 2023 Jun 19;2023(6):rjad349	Case report
18	Okamoto K, Inaki N, Saito H, et al.	一般・消化器外科	Analysis of factors associated with operative difficulty in thoracoscopic esophageal cancer surgery in the left-decubitus position: a single-center retrospective study	BMC Surgery. 2023 Aug 18;23(1):242	Original Article
19	Takahara Y, Tanaka T, Ishige Y, et al.	呼吸器内科	Influencing factors of efficacy and long-term use of amrubicin in patients with small cell lung cancer	Thorac Cancer. 2023 May;14(14):1286-1293	Original Article
20	Shinomiya S, Tanaka T, Shionoya I, et al.	呼吸器内科	A case of severe pneumonia caused by Legionella longbeachae with positive results by a Legionella urinary antigen detection kit	Ther Adv Infect Dis . 2023 Jun 14;10:20499361231179863	Case report
21	Kazu H, Yuzo S, Yoshiyuki H, et al.	消化器内視鏡科 (高齢医学)	A case of multiple solitary neurofibromas located in the hypopharynx and cervical esophagus	DEN Open. 2023 Apr 24;3(1):e160	Case report
22	Ushimoto C, Sugiki S, Kunii K, et al.	泌尿器科	Dynamic change and preventive role of stress response via Keap1-Nrf2 during renal crystal formation	Free Radic Biol Med. 2023 Oct;207:120-132	Original Article
23	Masaki M, Okushi Y, Saito A, et al.	循環器内科	Primary Effusion Lymphoma-like ATL Developing during Hemodialysis	Intern Med. 2023 Jun 15;62(12):1807-1811	Case report
24	Sawasaki F, Takeshita J, Tachibana K.	麻酔科	Influence of maternal position during combined spinal-epidural anesthesia for labor analgesia on technical difficulties and complications	J Anesth. 2023 Jun;37(3):426-432	Original Article
25	Koya T, Yoshida K, Togi M, et al.	再生医療センター	Clinical Trial on the Safety and Tolerability of Personalized Cancer Vaccines Using Human Platelet Lysate-Induced Antigen-Presenting Cells	Cancers (Basel) . 2023 Jul 14;15(14):3627	Original Article
26	Liu S, Hirakawa H, Han J, et al.	病理診断科	An Adult Man with Incomplete Amputation of Traumatic Left Upper Arm with an Aggravated Clinical Course and Unexpected Asthma Attack; An Autopsy Case	J Kanazawa Med Univ 48(1):54-58 2023	Case report
27	Kato T, Sakagami H.	歯科口腔科	Efficacy of Cryotherapy and Hangeshashinto for Radiation-induced Oral Stomatitis: Preliminary Study	In Vivo March 2023, 37 (2) 830-835	Original Article
28	Mito T, Ukai Y, Nakatsugawa Y, et al.	眼科	Orientation of the intermediate-vision zone of rotationally asymmetric multifocal intraocular lenses and photic phenomena	Jpn J Ophthalmol. 2023 May;67(3):318-325	Original Article
29	Takagi H, Mibe K, Takata S, et al.	産科婦人科	Usefulness of Fluorodeoxyglucose Positron Emission Tomography/Computed Tomography in Prognosis of Primary Uterine Carcinosarcoma	J Kanazawa Med Univ 48(1):22-28 2023	Original Article
30	Mura T, Matsumoto T, Aso M, et al.	臨床検査部	First reported isolation of hemin-requiring Proteus vulgaris small-colony variant from urine culture	J Infect Chemother. 2023 Jun;29(6):631-633	Original Article
31	Noguchi M, Inokuchi M, Yokoi-Noguchi M, et al.	乳腺・内分泌外科	The involvement of axillary reverse mapping nodes in patients with node-positive breast cancer	Eur J Surg Oncol.2023 Oct;49(10):106937	Original Article
32	Adhikari J #, Hirai T #, Kawakita E, et al. #Contributed equally	糖尿病・内分泌内科学,健康管理センター	Linagliptin ameliorated cardiac fibrosis and restored cardiomyocyte structure in diabetic mice associated with the suppression of necroptosis	J Diabetes Investig. 2023 Jul;14(7):844-855	Original Article

33	Kitajima H, Hatano E, Kawaguchi M, et al.	整形外科	Septic Arthritis of Cervical Spine Facet Joints: A Case Report and Review of Imaging	Am J Case Rep. 2023 Oct 11;24:e941578	Case report
34	Okamoto K, Saito H, Shimada M, et al.	一般・消化器外科	Successful treatment of nonocclusive mesenteric ischemia in a reconstructed jejunum after esophagectomy and remnant gastric tube resection: a case report	Surgical Case Reports. 2023 Aug 10(オンライン);9(1):144	Case report
35	Motono N, Mizoguchi T, Ishikawa M, et al.	呼吸器外科	Iatrogenic tracheal laceration due to rigid bronchoscopy treated by endoscopic stent placement: a case report	J Surg Case Rep. 2023 Oct 15;2023(10):rjad356.	Case report
36	Kubota R, Toshikuni N, Tsutsumi M, et al.	肝胆膵内科	Sonazoid-enhanced ultrasound images of multiacinar cirrhotic nodules showing a "donut-like" hyperintense appearance on Gd-EOB-MRI: a case report	J Med Ultrason (2001). 2023 Oct;50(4):573-574.	Case report
37	Masaki Y, Ueda Y, Yanagisawa H, et al.	血液・リウマチ膠原病科	Castleman Disease, TAFRO Syndrome and Related Disorders	Journal of Health Care Communications.2023 Apr 26;08(02):66-68	Others
38	Ushimoto T, Murasaka K, Sakurai M, et al.	救命救急科	Physicians' Resilience as a Positive Effect of COVID-19	JMA J. 2023;6(4):365-370	Original Article
39	Yasui Y, Kido M, Nakamura K, et al.	小児外科	The Junction Between the Peristaltic and Non-peristaltic Bowel (Shore Break) is Found in the Transition Zone in Hirschsprung's Disease	J Pediatr Surg. 2023 Nov;58(11):2160-2164.	Original Article
40	Futatsuya T, Mura T, Anzawa K, et al.	皮膚科	MALDI-TOF MS identification of Exophiala species isolated in Japan: Library enrichment and faster sample preparation	J Dermatol. 2023 Oct;50(10):1313-1320.	Original Article
41	Takahara Y, Abe R, Sumito N, et al.	呼吸器内科	Investigation of response factors for monotherapy with immune checkpoint inhibitors in non-small cell lung cancer patients with PD-L1 expression <50%	Thorac Cancer. 2023 Sep;14(27):2754-2760	Original Article
42	Miyanaga T, Kaneko T, Yagishita M, et al.	形成外科	Treatment for Calcaneal Osteomyelitis with Pseudoarthrosis with a Vascularized Fibula Bone Graft and Autologous Cancellous Bone Graft: A Case Report	Journal of Plastic and Reconstructive Surgery.2023 Oct;2(4)150-155	Case report
43	Noguchi M, Inokuchi M, Yokoi-Noguchi M, et al.	乳腺・内分泌外科	Axillary Reverse Mapping in Clinically Node-Positive Breast Cancer Patients	cancers 2023,15(21),5302	Original Article
44	Kumagai M, Takata S, Watanabe T, et al.	病理診断科	Glioblastoma/high-grade glioma with a primitive neuronal component that included rhabdoid differentiation that was difficult to diagnose: A case report	Pathol Res Pract. 2023 Nov;251:154830.	Case report
45	Noguchi M, Inokuchi M, Yokoi-Noguchi M, et al.	乳腺・内分泌外科	Conservative Axillary Surgery May Prevent Arm Lymphedema without Increasing Axillary Recurrence in the Surgical Management of Breast Cancer	cancers 2023,15(22),5353	Review
46	Nomura F, Shimizu A, Togi S, et al.	皮膚科	SNP Array Screening and Long Range PCR-Based Targeted Next Generation Sequencing for Autosomal Recessive Disease with Consanguinity: Insight from a Case of	Genes (Basel). 2023 Nov 15;14(11):2079.	Case report
47	Niida Y, Kobayashi A, Togi S, et al.	ゲノム医療センター	Recessive dystrophic epidermolysis bullosa caused by a novel COL7A1 variant with isodisomy	Human Genome Variation. 2023 Nov;10:29	Case report
48	Takahashi E, Chen M, Kaneuji A, et al.	整形外科	Comparative study of highly cross-linked polyethylene liner wear by hip center location using elevated hip center technique in Crowe I to III hip dysplasia: Outcomes for a minimum of eighteen years follow-up	J Arthroplasty. 2023 Dec;38(12):2655-2660.	Original Article
49	Yagi K, Okazaki S, Ohbatake A, et al.	ゲノム医療センター	Negative correlation between organ heteroplasmy, particularly hepatic heteroplasmy, and age at death revealed by post-mortem studies of m.3243A > G cases	Mol Genet Metab. 2023 Nov;140(3):107691.	Original Article

50	Doai M, Nishino Y, Hayashi Y, et al.	放射線科	Attenuation of gadolinium enhancement in pituitary gland on magnetic resonance imaging of patients with pediatric growth hormone deficiency	BMC Med Imaging. 2023 Nov 17;23(1):188.	Original Article
51	Ohi K, Nishizawa D, Sugiyama S, et al.	総合内科	Cognitive performances across individuals at high genetic risk for schizophrenia, high genetic risk for bipolar disorder, and low genetic risks: a combined polygenic risk score approach	Psychol Med. 2023 Jul;53(10):4454-4463.	Original Article
52	Takagi H, Takakura M, Sasagawa T	産科婦人科	Risk factors of heavy uterine bleeding in patients with endometriosis and adenomyosis treated with dienogest	Taiwanese Journal of Obstetrics&Gynecology.2023 Nov;62(6):852-857	Original Article
53	Sakamoto D, Sakamoto T, Nagayoshi Y, et al.	心臓血管外科学	Femorotibial Bypass Sutured on Bovine Pericardium Patch of the Femoral Artery for Bypass Inflow: A Case Report	Cureus 2023 Nov 25; 15 (11): e49381	Case report
54	Motono N, Mizoguchi T, Ishikawa M, et al.	呼吸器外科	Prognostic Impact of Cancer Inflammation Prognostic Index for Non-small Cell Lung Cancer.	Lung. 2023 Dec;201(6):603-610.	Original Article
55	Koya D, Anker SD, Ruilope LM, et al.	糖尿病・内分泌内科	Cardiorenal Outcomes with Finerenone in Asian Patients with Chronic Kidney Disease and Type 2 Diabetes: A FIDELIO-DKD post hoc Analysis	Am J Nephrol. 2023 Nov;54(9-10):370-378.	Original Article
56	T Miwa, E Mori, R Sekine, et al.	耳鼻咽喉科	Olfactory and taste dysfunctions caused by COVID-19: a nationwide study.	Rhinology 61-6: 552-560, 2023	Original Article
57	Takata T, Masauji T, Motoo Y	薬剤部	Potential of the Novel Slot Blot Method with a PVDF Membrane for Protein Identification and Quantification in Kambo Medicines	Membranes 2023, Dec; 13(12): 896	Others
58	Ono T, Nishino N, Iwai Y, et al.	高齢医学	Eurycoma longifolia (Tongkat Ali) enhances wakefulness during active periods, but facilitates sleep during resting periods in C57BL/6 mice	Eur J Neurosci. 2023 Dec;58(11):4298-4309.	Original Article
59	Taga F, Anzawa K, Ono H, et al.	皮膚科	Possibly the first case of onychomycosis by Fusarium lactis: Case presentation and literature review of onychomycosis by Fusarium species	J Dermatol. 2023 Dec;50(12):1550-1559.	Original Article
60	Han J, Itoh T, Shioya A, et al.	病理診断科	The Combination of the Low Immunohistochemical Expression of Peroxiredoxin 4 and Perilipin 2 Predicts Longer Survival in Pancreatic Ductal Adenocarcinoma with Peroxiredoxin 4 Possibly Playing a Main Role	Histology and Histopathology, 38(12):1415-1427, 2023	Original Article
61	Fujii A, Hayashi N, Fujita H, et al.	腎臓内科学	A Case of Spontaneous Remission of Membranous Nephropathy After the Removal of Nerve Epidermal Growth Factor-Like 1 Positive Sigmoid Colon Carcinoma	Cureus 15(12): e49892.	Case report
62	Takebayashi K, Kadoguchi R, Shioya A, et al.	病理診断科	A case of lymphomatous pleural effusion from angioimmunoblastic T-cell lymphoma: The methodology of cell transfer technique and immunocytochemistry on an inadequate cytology specimen can potentially guide us to the correct	Cytopathology. 2024 Jan;35(1):145-148.	Case report
63	Okada N, Shioya A, Togi S, et al.	小児科	A Case of Von Hippel-Lindau Disease With Recurrence of Paraganglioma and No Other Associated Symptoms: The Importance of Genetic Testing and Establishing Follow-Up Policies	Cureus 15(12):e50484	Case report
64	Niida Y, Togi S, Ura H	ゲノム医療センター	Streamlining Genetic Diagnosis With Long-Range Polymerase Chain Reaction (PCR)-Based NextGeneration Sequencing for Type I and Type II Collagenopathies	Cureus 15(12):e50482	Original Article
65	Takata T, Masauji T, Motoo Y	薬剤部	Analysis of Crude, Diverse, and Multiple Advanced Glycation End-Product Patterns May be Important and Beneficial	Metabolites 2024, Jan; 14(1): 3	Others
66	Takeda K, Sakai-Sakasai A, Kajinami K, et al.	循環器内科	A Novel Approach: Investigating the Intracellular Clearance Mechanism of Glyceraldehyde-Derived Advanced Glycation End-Products Using the Artificial Checkpoint Kinase 1 d270KD Mutant as a Substrate Model	Cells 2023, 12(24), 2838	Original Article

67	Fujii A , Kondo T, Katsura Y, et al.	腎臓内科学	Case report of systemic sclerosis: Uncommon manifestation of nephrotic syndrome post- renal crisis	SAGE Open Medical Case Reports Volume 11: 1-4	Case report
68	Kitayama M, Unoki T, Liu K, et al.	看護部	Enteral nutrition practice in the prone position in patients with coronavirus disease 2019: An international one-day point prevalence analysis	Clinical Nutrition ESPEN	Original Article
69	Soma D, Ichiseki T, Ueda S, et al.	整形外科	Radiographic evaluation and changes in bone density of the humeral side after reverse total shoulder arthroplasty	Journal of Clinical Medicine 2023. Dec;12(24): 7698	Original Article
70	Kobayashi M*, Miwa T*, Mori E, et al. *contributed equally	耳鼻咽喉科	Efficacy of tokishakuyakusan and mecobalamin on post-infectious olfactory dysfunction: A prospective multicenter study.	Auris Nasus Larynx	Original Article
71	Ono H, Yamaguchi R, Anzawa K, et al.	皮膚科	Detection of varicella-zoster virus in two dermatomes of herpes zoster duplex bilateralis in an immunocompetent host	J Dermatol. 2024 Jan;51(1):98-100.	Original Article
72	Iijima Y, Ishikawa M, Motono N, et al.	呼吸器外科	Bilateral adrenal infarction and insufficiency associated with antiphospholipid syndrome and surgery: A case report.	Int J Emerg Med. 2023 Dec 21;16(1):93.	Case report
73	Motono N, Mizoguchi T, Ishikawa M, et al.	呼吸器外科	Adhesion is a risk factor for postoperative recurrence of spontaneous pneumothorax	Journal of Thoracic Disease 2023;15(12):6788-6795	Original Article
74	Ohi K, Fujikane D, Kuramitsu A, et al.	総合内科	Is adjustment disorder genetically correlated with depression, anxiety, or risk-tolerant personality trait?	J Affect Disord. 2023 Nov 1;340:197-203.	Original Article
75	Kazutaka Ohi	総合内科	Shared genetic correlation and causal association between major depressive disorder and breast cancer	BMC Med. 2023 Jun 6;21(1):203.	Others
76	Kawakita E, Yang F , Shi S, et al.	糖尿病・内分泌内科	Inhibition of Dipeptidyl Peptidase-4 Activates Autophagy to Promote Survival of Breast Cancer Cells via the mTOR/HIF-1 Pathway	Cancers (Basel). 2023 Sep 12;15(18):4529.	Original Article
77	Okada N, Fujisawa R, Saikawa Y, et al.	小児科学	Clinical Images: Megakaryocytic Emperipoles in a Patient with Myelodysplastic Syndrome	J Kanazawa Med Univ 48(2):85-86 2023	Case report
78	Matsuba S, Yamamoto R, Ishigaki Y, et al.	薬剤部	Survey of the Review Process for Approved Animal Protocols and Feedback to Education and Training	J Kanazawa Med Univ 48(2):81-84 2023	Original Article
79	Ando M, Nishino T	小児外科学	Biodegradable Semi-Rigid Mitral Valve Annuloplasty Ring Designed for Children	J Kanazawa Med Univ 48(2):65-69 2023	Review
80	Hasumoto M, Demura T, Nakano H, et al.	歯科口腔科	Characteristic Clinical Features of Orthognathic Surgery Patients Encountered Over 18year Period –a Retrospective Study	J Kanazawa Med Univ 48(2):70-75 2023	Original Article
81	Hasumoto M, Demura T, Wada S, et al.	歯科口腔科	Stability Following Intraoral Vertico-Sagittal Ramus Osteotomy and Sagittal Split Ramus Osteotomy for Asymmetric Mandibular Prognathism	J Kanazawa Med Univ 48(2):76-80 2023	Original Article
82	Fujii A, Sakuma M, Matsuda Y, et al.	腎臓内科	A Case of Sjogren's Syndrome Complicated with Intestinal and Retroperitoneal Emphysema during Glucocorticoid Treatment for Interstitial Nephritis	J Kanazawa Med Univ 49(1):31-34 2024	Case report
83	Kinoshita Y, Ono M, Yamazaki N, et al.	耳鼻咽喉科	Current Status and Problems in Hearing Examination for Young Children.	J Kanazawa Med Univ 49(1):1-6 2024	Review

84	Okada N, Fujisawa R, Saikawa Y, et al.	小児科	Hemophagocytic Lymphohistiocytosis during the Treatment of T-lymphoblastic Lymphoma	J Kanazawa Med Univ 49(1):35-37 2024	Case report
85	Ohata A, Koide Y, Kataoka Y, et al.	神経科精神科	Evaluation of Brain Neural Networks in Patients with Schizophrenia	J Kanazawa Med Univ 49(1):23-30 2023	Original Article
86	Kaneuji A, Imai B, Sugama R, et al.	整形外科	Implant fixation of primary total hip arthroplasty using a cementless cup for osteoarthritis secondary to developmental dysplasia of the hip: A prospective multicenter study in Japan	Journal of joint surgery and research. 2024 Mar 2:19-24	Original Article
87	Fujii T, Machida K, Sakamoto D, et al.	心臓血管外科学	A Rare Case of Partial Anomalous Pulmonary Venous Connection	Cureus 15(12): e50913	Case report
88	Noguchi M, Morioka E, Yokoi-Noguchi M, et al.	乳腺・内分泌外科	Oncoplastic breast surgery to prevent "Bird's beak" deformity in the breast: a comparative retrospective study	Surg Today. 2024 Jan;54(1):14-22.	Original Article
89	Ohi K, Shimada M, Soda M, et al.	総合内科	Genome-wide DNA methylation risk scores for schizophrenia derived from blood and brain tissues further explain the genetic risk in patients stratified by polygenic risk scores for schizophrenia and bipolar disorder	BMJ Mental Health Jan 11;27(1):e300936.	Original Article
90	Okemoto H, Mito T, Kawamorita T, et al.	眼科	Anterior Segment Optical Coherence Tomography Findings in Capsular Block Syndrome with Improvement in Myopia Following Neodymium-Yttrium Aluminum Garnet Laser Treatment	Case Rep Ophthalmol. 2024 Jan 29;15(1):78-83.	Case report
91	Motono N, Mizoguchi T, Ishikawa M, et al.	呼吸器外科	Vacuum-assisted closure for chest wall reconstruction infection caused by Streptococcus mitis after surgery of lung cancer: a case report	Surg Case Rep. 2024 Jan 31;10(1):29.	Case report
92	Mukai T, Nakai Y, Hamada T, et al.	消化器内視鏡科	Early versus delayed EUS-guided drainage for postoperative pancreatic fluid collections: a systematic review and meta-analysis.	Surg Endosc. 2024 Jan;38(1):47-55.	Review
93	Mitate E, Moriwaki S, Masui I	歯科口腔科	Blue-Violet Light-Blocking Eye Protectors in Dental Practice: A Preliminary Study	SciBase Dent Oral Sci. 2023; 1(2): 1007.	Original Article
94	Mitate E, Masui I	歯科口腔科	Review of Clinical Records in the Oral and Maxillofacial Surgery at Hirose Hospital	Archives of Dentistry and Oral Health. 2024;5(1): 17-23	Original Article
95	Iijima Y, Mizoguchi T, Ishikawa M, et al.	呼吸器外科	Successful surgical treatment of an intraoperatively ruptured lung abscess rupture using free pericardial fat implantation: a case report	Surg Case Rep. 2024 Jan 11;10(1):15.	Case report
96	Miyata T, Sannomiya Y, Nagayama T, et al.	一般・消化器外科	Adrenocortical carcinoma with a renal vein thrombus extending to the inferior vena cava successfully resected with the left kidney and distal pancreatectomy: A case report	Case Rep Oncol. 2024 Feb 27;17(1):377-385.	Case report
97	Fuji A, Matsuda Y, Yabe T, et al.	腎臓内科	Nephrotic syndrome with rectus sheath hematoma: a case report	J Med Case Rep. 2024 Mar 10;18(1):148.	Case report
98	Furuichi K, Iwata Y	腎臓内科	D-Amino acids in Kidney Diseases	Kidney360. 2024 Feb 1;5(2):173-174.	Others
99	Okamoto K, Yamaguchi T, Asakawa T, et al.	一般・消化器外科	Multidisciplinary treatment of advanced cervical esophageal adenocarcinoma derived from a gastric inlet patch: A case report	Oncol Lett. 2024 Jan 25;27(3):120.	Case report
100	Kaneuji A, Fukui M, Takahashi E, et al.	整形外科	Hip-sacroiliac joint-spine syndrome in total hip arthroplasty patients	Sci Rep. 2024 Feb 15;14(1):3813.	Original Article

101	Sakai-Sakasaki A, Takeda K, Suzuki H, et al.	薬剤部	Structures of Toxic Advanced Glycation End-Products Derived from Glyceraldehyde, A Sugar Metabolite	Biomolecules.14(2)	Review
102	Kinami S, Kaida D, Okamoto K, et al.	一般・消化器外科	Long term survival prognosis of function preserving curative gastrectomy for early gastric cancer	Oncol Lett. 2024 Jan 22;27(3):115.	Original Article
103	Okanemasa Y, Shioya A, Kumagai M, et al.	病理診断科	A Unique Surgical Case of Mixed Metaplastic Breast Carcinoma With Heterologous Mesenchymal Differentiation and Conventional Adenocarcinomatous Elements	Cureus. 2024 Mar 11;16(3):e55926.	Case report
104	Takahara Y, Abe R, Nagae S, et al.	呼吸器内科	Investigation of response of patients with non-small cell lung cancer to docetaxel (plus ramucirumab) therapy in second-line treatment	Thorac Cancer. 2023 Dec;14(36):3549-3555.	Original Article
105	Kawasaki Y, Nishiki K, Nojiri M, et al.	呼吸器内科	Prognostic value of the serum creatinine/cystatin C ratio in patients with chronic obstructive pulmonary disease	Respir Investig. 2024 Jan;62(1):143-149.	Original Article
106	Hirofumi T, Tamura R, Ando M, et al.	小児外科	External Esophageal Stenting Technique in Palliation for Tracheal Agenesis in a Case of Esophageal Lung: A Lesson Learned from the Experience for Tracheomalacia	Children (Basel). 2023 Dec 10;10(12):1907.	Case report
107	Saeki Y, Saito M, Irie T, et al.	産科婦人科	Effectiveness of prophylactic HPV vaccines against cervical abnormalities and HPV infection in Japan: The J-HERS 2021 multicenter study	J Med Virol. 2024 Feb;96(2):e29413.	Original Article
108	Miyanaga T, Yoshitomi Y, Miyanaga A.	形成外科	Perifascial areolar tissue graft promotes angiogenesis and wound healing in an exposed ischemic component rabbit model	PLoS One. 2024 Feb 20;19(2):e0298971.	Original Article
109	Yamagata M, Tsuchishima M, Saito T, et al.	肝胆膵内科	Therapeutic implication of human placental extract to prevent liver cirrhosis in rats with metabolic dysfunction-associated steatohepatitis	Clin Sci (Lond). 2024 Mar 6;138(5):327-349.	Original Article

計 109件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 手順書の主な内容 臨床における倫理方針、職業倫理要綱 患者の権利 臨床倫理の研修 臨床倫理問題 高難度新規医療技術の導入 未承認新規医薬品等を用いた医療	
倫理審査委員会の開催状況	年 7 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に 印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 規定の主な内容 学校法人金沢医科大学における産学官連携活動等における利益相反に関する状況に適正に対処することにより、本学及び教職員等の社会的信用及び名誉を保持することを目的とする。 利益相反マネジメント委員会では以下の事項を審議する。 (1) 利益相反マネジメントポリシー及び規程等に関する事項 (2) 利益相反問題の適切な対処に関する施策の検討及び実施 (3) 第 11 条の規定による自己申告書の内容の検討及び調査 (4) 利益相反マネジメントの実施のために必要な状況調査 (5) 前号の調査で得られた情報の評価 (6) その他利益相反に関する事項	
利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員	年 2 回

会の開催状況	
--------	--

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3)臨床研究の倫理に関する講習等の実施

臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年16回
<p>・研修の主な内容</p> <p>治験・臨床研究の倫理に関する教育研修会出前講座として、看護部の師長及び主任を対象とした教育研修会「看護部の皆さんの研究が円滑に進むための臨床研究倫理講座」を実施（令和6年3月5日、3月13日、3月27日の3回）</p> <p>臨床研究セミナー（名古屋大学医学部附属病院（中部先端医療開発円環コンソーシアム）からのライブ配信）を年13回開催（1～2回/月）</p> <p>研究者は、薬機法、GCP、臨床研究法等の法令及び「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」等の各研究倫理指針を遵守しなければならない。「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」では、研究者は研究に先立ち、研究実施に必要な研究倫理の講習・研修を適宜かつ継続的に受けなければならないとされている。臨床研究セミナーは全教職員対象で案内を行っている。また、病院看護部所属の看護師からの研究申請に当たり、指導的立場である看護部看護師長及び主任を対象に基本的な知識の習得のため、講習会を開催した。</p>	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

当院は、日本専門医機構の整備指針による基幹病院として、19領域の専門研修プログラム（日本救急医学会プログラムでは石川県立中央病院プログラムの協力病院）による専門研修を行なうことが出来る。

また、当院では臨床研修2年次より本学大学院に進学することが可能であり、最短5年間で臨床研修の修了と大学院医学研究科の博士号を取得することが出来る。

当院の専門プログラムで研修を行なっている専攻医は、2年間の臨床研修で修得した知識と技術を基礎に、各診療科の専門医・指導医の資格を有する教授、准教授他、上級医からの指導体制のもと高度な専門的医療を学びながら専門医試験の合格を目指している。

特に当院では、多職種によるカンファレンスや診療科の垣根を超えた合同カンファレンスが日常的に行われており、医師、歯科医師としての見識を高め、高度な医療を提供出来る専門医の育成を行っていることが特色として挙げられる。

なお、各専門領域における専門研修プログラムの目的、研修内容と到達目標、専門医認定試験までのスケジュール等の詳細については、金沢医科大学病院臨床研修センターのホームページ（専門（専攻医）研修）に公開【URL: <https://kanazawa-med.ac.jp/hospital/recruit/trainee/koki/ryoiki/>】しており、誰でも確認することが出来る。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	92 人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

令和6年6月1日現在

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
梶波 康二	循環器内科	診療科長	40年	
土谷 武嗣	心血管カテーテル治療科	診療科長	36年	
高野 環	心臓血管外科	診療科長	33年	
高野 環（事務取扱）	末梢血管外科	診療科長	33年	【重複】
安藤 誠	小児心臓血管外科	診療科長	33年	
井口 晶晴	呼吸器内科	診療科長	28年	
浦本 秀隆	呼吸器外科	診療科長	30年	
土島 睦	消化器内科（肝胆膵・消化管）	診療科長	38年	
高村 博之	一般・消化器外科	診療科長	34年	
井口 雅史	乳腺・内分泌外科	診療科長	29年	

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
古市 賢吾	腎臓内科	診療科長	31年	
田中 達朗（囑託）	泌尿器科	診療科長	42年	
熊代 尚記	糖尿病・内分泌内科	診療科長	25年	
正木 康史	血液・リウマチ膠原病科	診療科長	35年	
朝比奈正人	脳神経内科	診療科長	37年	
林 康彦	脳神経外科	診療科長	33年	
安本 和生	腫瘍内科	診療科長	38年	
大黒 正志	高齢医学科	診療科長	29年	
伊川 泰広	小児科	診療科長	18年	
水田 秀一	総合内科	診療科長	38年	
岡島 英明	小児外科	診療科長	37年	
川崎 康弘（囑託）	神経科精神科	診療科長	39年	
川崎 康弘	心身医学科	診療科長	39年	【重複】
南 哲弥	放射線科	診療科長	27年	
南 哲弥	放射線治療科	診療科長	27年	【重複】
兼氏 歩	整形外科	診療科長	33年	
島田 賢一	形成外科	診療科長	31年	
佐々木 洋	眼科	診療科長	37年	
三輪 高喜（囑託）	耳鼻咽喉科	診療科長	41年	
北村 守正	頭頸部・甲状腺外科	診療科長	29年	
清水 晶	皮膚科	診療科長	28年	
高倉 正博	産科婦人科	診療科長	31年	
高橋 完	麻酔科	診療科長	32年	
松下 功	リハビリテーション医学科	診療科長	37年	

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
川原 範夫（事務取扱）	救命救急科	診療科長	41年	
山田 壮亮	病理診断科	診療科長	22年	
飯沼 由嗣	感染症科	診療科長	38年	
中橋 毅（嘱託）	総合診療センター	センター長	34年	
出村 昇	歯科口腔科	診療科長	40年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数
業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数
他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会 がん看護イブニングセミナー がん看護の基礎・専門知識を学ぶ（全5コース） ELNEC-J看護師教育研修会 エンド・オブ・ライフ・ケア（終末期看護）について 石川県専門看護実践研修（摂食嚥下障害看護） 抗がん剤の適正使用に関する職員研修 ・研修の期間・実施回数 令和5年10月15日 令和5年度 全5コース 令和5年9月14日、15日 令和5年10月6日～11月17日 全6回 令和5年9月25日 ・研修の参加人数 医師22名 看護師約130名 看護師28名 看護師33名 薬剤師28名

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
管理責任者氏名	病院長 川原範夫
管理担当者氏名	統合情報管理部部長 中村光宏、 病院事務部 医療安全担当副部長 原 章文、 病院管理課（人事担当）課長 竹中愛美

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の第三第二項に掲げる事項	病院日誌	病院管理課（管理担当）	
		各科診療日誌	各診療科	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	電子カルテ、看護部	
		看護記録	電子カルテ、看護部	
		検査所見記録	電子カルテ	
		エックス線写真	中央放射線部	
		紹介状 退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	電子カルテ	
			【診療録】 患者登録は初回来院時の登録番号（7桁）を基準として、1患者1番号で生涯有効性を採用し、1患者の入院と外来の全病歴を電子媒体により保存・管理している。 診療録の利用に当たり、管理場所以外へ診療録を移動すること、また利用者間で診療録をまた貸出することは「診療録貸出規定」にて禁止事項となっています。	
病院の管理及び運営に関する諸記録	掲げる事項	規則第二十二條の第三第三項に	従業者数を明らかにする帳簿	病院管理課（人事担当）
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
		高度の医療の研修の実績	臨床試験治験センター	
		閲覧実績	病院管理課（管理担当）	
		紹介患者に対する医療提供の実績	地域医療連携事務課	
	事項	規則第一條の十一第一項に掲げる	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	病院管理課（管理担当）、薬剤部
			医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全課
			医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全課
			医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全課
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全課	
			本学における文章保存規程に定められた期間、施錠できる書庫にて保管。	

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医療安全課	本学における文章保存規程に定められた期間、施錠できる書庫にて保管。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医療安全課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療安全課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全課	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医療安全課	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全課	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	C E 部、医療安全課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	C E 部	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	C E 部			
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	C E 部			

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療安全課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療安全課
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	情報管理課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	情報管理課
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全課
		監査委員会の設置状況	医療安全課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全課
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全課
		職員研修の実施状況	医療安全課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全課
管理者が有する権限に関する状況	病院管理課（管理担当）		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	医療安全課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1.計画 ②現状
閲覧責任者氏名	医療情報担当副院長 川崎 康弘
閲覧担当者氏名	医事課診療情報担当課長 澤野 千賀子(診療記録)
閲覧の求めに応じる場所	・医事課診療情報担当(病歴)事務室内

閲覧の手続の概要
電子カルテシステム稼動(平成12年)以前の紙の診療録の貸し出しについては、貸出日の前日までに貸し出し依頼票を医事課診療情報担当事務に提出し、医療情報部長の許可を受けて実施する。貸出期間は2日以内とし(ただし、日曜・祝日は期間に含めない)、返却が遅延した場合、借用者に返却督促を行う。
当該患者の診療のため診療録が必要となった場合を除き、診療録の閲覧場所は医事課診療情報担当(病歴)事務室内で行う。
診療録の利用に当たり管理場所以外へ診療録を移動すること、また利用者間で診療録を転貸することは「診療録貸出規程」にて禁止事項となっている。

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延 19 件
閲覧者別	医師	延 12 件
	歯科医師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>医療事故防止に関する安全管理体制の指針（以下「指針」という。）は医療事故防止に関する安全管理体制、安全管理体制に関する関係規程及び医療事故防止に関する共通及び部門マニュアルの3部構成をとっている。</p> <p>指針は、医療事故防止に関する病院の方針、用語の定義、医療事故の防止体制、医療事故発生時の対応、インシデントレポートに関する基本事項、医療事故防止規程・マニュアルの整備、医療事故防止に関する職員の研修、患者暴力行為への対応、安全管理体制に関する組織図等、医療事故報告書様式など医療事故防止に係る基本的事項を収載している。</p>	
医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（ 有・無 ）</p> <p>・ 開催状況：年 原則 12 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>医療安全管理委員会：2023年度14回/原則月1回開催 院内における医療安全管理対策を総合的に立案及び実施するため、各部門の安全管理責任者で構成される。院内で発生した医療事故、及び、全死亡例の検証等を行い、報告が適切に行われているかを確認し、その結果を病院長へ報告する。また、重大な問題が発生した場合の速やかな原因分析、分析結果を活用した改善策の立案、事故防止に向けた改善の実施や職員への周知、改善策の実施状況調査を行う。</p> <p>医療安全対策委員会：2023年度12回/月1回開催（第4火曜日） 医療安全対策委員会は各部門・各部署の部門セーフティマネージャー（病棟医長、部長、看護師長、技師長、課長相当職）で構成されている。インシデント情報の収集結果、状況別・原因別集計表及び医療安全対策小委員会から報告されるインシデント事例の分析・検討結果及び改善策、医療問題検討委員会で検討された医療事故に関してそれぞれの部門・部署に周知すると共に情報を共有し、事故の防止に努める。さらに、診療科、病棟、薬剤部、ME部他関連する部署のスタッフが、それぞれの部署でのインシデント事例について、職種を超えて分析・検討するインシデント分析検討会を定期的に行っており、その内容について毎回2～3グループの代表者が報告する。</p> <p>他に指針・マニュアルの改正、医療安全院内ラウンド、全体職員・セーフティマネージャー研修会、医療安全アンケート、その他医療安全に係る事項について定める。</p> <p>委員会の議事録及び資料は、各委員及び全セーフティマネージャーに配付し所属職員全員に周知するよう回覧を行い、読んだ者はサインするようにしている。他に、電子カルテ上とイントラネット「病院職員のページ」にも委員会の議事録を掲載している。</p> <p>医療安全対策小委員会：2023年度11回/月1回開催（第3水曜日） 医療安全対策小委員会は医療安全管理室長を委員長に配し、医療安全管理者、内科系・外科系・小児科等の医師、看護師、薬剤師、医療技術職員及び事務職員で構成され、医療安全管理者が決めたテーマや各部門に共通するようなインシデント事例を抽出して事例検討を行う。</p> <p>小委員会では、インシデントに至る状況、要因、影響等について、徹底的に分析・検討し、改善策や再発防止対策を洗い出す。また、その結果を医療安全対策委員会に小委員会からの事例報告として報告・提案・注意喚起するととも</p>	

に、システムの改善で防止できるものであれば担当部署に委員会として改善を要望する。	
医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年2回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <ul style="list-style-type: none"> 第1回研修会 <ul style="list-style-type: none"> 「診療放射線及びMR-Iの安全管理について」 「当院におけるインシデントの状況」 第2回研修会 <ul style="list-style-type: none"> 「院内発症した脳主幹動脈閉塞による急性期脳梗塞の対応」 「心電図モニター監視システムを生かすには」 	
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備（ <input checked="" type="checkbox"/> ・無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： <p>医療安全管理者が、医療事故報告書とインシデントレポートの報告内容を確認するため、現場状況調査を行い事象の分析を通して問題点を把握する。</p> <p>また、各部署より医療安全に関する業務改善計画を年3回（ 初期計画（5月）、 中間報告（10月）、 最終評価（3月））に提出してもらい、その都度評価と改善策の検討を行っている。さらに、院内ラウンドとセーフティマネージャーカンファレンスを実施し、各部署から提出された業務改善計画の実施状況の確認を行っている。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染に対策に関する基本的な考え方 2. 院内感染対策のための委員会およびその他組織に関する基本事項 3. 院内感染対策のための職員等に対する研修に関する基本方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針 6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 7. その他院内感染対策推進のために必要な基本方針 	
院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染事例への対応に関する事項 2. サーベイランスデータに基づく、院内感染症発生状況の把握と対策に関する事項 3. 抗菌薬適正使用に関する事項 4. 院内感染対策に係る緊急事態（重大な感染事例発生等）への対応に関する事項 5. 院内感染防止対策に係る教育啓発に関する事項 6. 感染対策マニュアルの改訂に関する事項 7. その他、院内感染防止対策に関する協議検討報告事項 <p>上記について、審議、周知を行う。 委員会の議事録は、電子カルテ上とイントラネット（「病院職員のページ」）に掲載している。 また、院内感染事例への対応については、委員会報告として各部署のリンク委員に配布し、周知のために回覧し伝達を行っている。</p>	
従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年13回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>【全職員対象】：2回</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 令和5年 4月17日 「当院における院内感染対策の課題と対応策 新型コロナウイルス対策も含めて」 「抗菌薬適正使用の推進について」 2. 令和5年12月12日 「院内感染対策および抗菌薬適正使用の実践とリスク管理」 <p>【新採用者研修】：5回</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 令和5年 4月 3日 「新入職員オリエンテーション・院内感染対策について」 全新入職者対象 2. 令和5年 4月 3日 「院内感染対策、手洗い講習」 コメディカル対象 3. 令和5年 4月 4日 「感染管理 感染管理概論、針刺し切創・粘膜曝露、標準予防策、感染経路予防策、PPE脱着訓練、抗菌薬適正使用」 新人看護師対象 4. 令和5年 4月 6日 「標準予防策、感染経路予防策、手指衛生の実際、個人防護具の着脱訓練」 初期臨床研修医対象 5. 令和5年 4月 7日 「針刺し切創・粘膜曝露防止対策」 初期臨床研修医対象 <p>【ICN主催】：5回</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 令和5年 6月 「手指衛生」 2. 令和5年 7月 「検体採取」 3. 令和5年 9月 「血管内留置カテーテル関連感染対策」 4. 令和5年11月 「SSI」 5. 令和5年11月 「職業感染防止のための絵入り機材作動トレーニング」 <p>2. 令和4年11月15日 「感染対策研修 清掃時に注意して欲しいこと」 清掃業者</p> <p>【その他】：1回</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 令和5年11月 「嘔吐処理・エプロンの脱ぎ方について」 清掃業者研修 	

感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (〇・無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :

【新型コロナウイルス対策について】

新型コロナウイルス感染症は令和5年5月より感染症法5類へ移行された。移行期を経て、11月よりコロナ病棟閉鎖となり、以後病棟管理となっている。令和6年1月1日に発災した能登半島地震関連の患者受け入れを目的に、旧コロナ病棟を一時的に再開したが、受け入れ患者数の減少に伴い、2月に閉鎖した。令和6年2月にマニュアルの最終改訂を行い、現在運用されている。令和5年度は1週間以上の病棟閉鎖が必要なクラスター発生はなかった。また、医師のタスクシフトとして看護師による鼻咽頭スワブ検体採取トレーニングを看護部とともに推進している。

【標準予防策遵守の徹底】

・ 手指衛生順守率向上

一日一患者あたりの手指消毒回数の一般病棟年間平均基本目標は、1日1患者あたり25回であった。傾向として年度初めは回数が向上するが、1月～3月にかけては平均16回程度ととどまり、CRBSI等医療器具関連感染が著しかった。手指衛生回数は、院内感染に大きく相関することが明らかとなった。ICTとしては、各部署リンク委員、管理者と直接面談し取り組みなどサポートする。

・ 個人用防護具の着脱の適切なタイミングの直接観察と遵守状況の確認

手袋、エプロン、サージカルマスクの正しい着脱手順、アイガードの装着状況について、現場ラウンド時に繰り返し指導を行った。アイガードは患者接触時に装着していない状況があるので周知をしていく。

理学療法士、看護師、臨床検査技師、医師等、コロナおよび結核対応時にフィットテストを行い、適切な使用方法について啓発を行った。

吐物汚染物処理方法が不適切のため、院内伝播発生(ノロウイルス3件)があった。PPEの適切な選択ができていなかったため、吐物排泄物処理方法のトレーニングを予定する。

【サーベイランスデータの活用】

SSI発症例についてMRSAなど皮膚表在菌の検出が増加したことから、術野のグルコン酸クロルヘキシジン(0.5%マスキン®)による皮膚消毒を導入した(頭部・頸部以外の手術に適用)。

新規症候サーベイランスを開始。毎日10時以降に発熱者に対する微生物検査実施推進、BSSに対する検査実施の有無、サーベイランス入力状況、静脈炎スケールと記録、対策の確認を行った。血液培養2セット採取率向上につながった。

【デバイス関連感染防止対策の強化】

・ CRBSI:2023年度のカテーテル関連血流感染症はCVC 8件、PVC 6件、CVポート 10件、PICC 8件、透析カテ 1件、PICCポート 5件であった。PICCは挿入件数が増加し、感染件数も増加傾向となった。また感染リスクが低いとされているポート感染が多く、刺入時の衛生管理、手袋交換と手指衛生の徹底が不十分であることが明らかとなった。末梢静脈カテーテルに関しては、静脈炎スケールによる評価と早期発見早期対応についてリンクナース会で強化されたが、静脈炎スケール観察、ポケットチャート撮影の欠落がある。

発生病棟に対しては、リアルタイムにフィードバックし、改善策の検討を依頼した。11月より私立大学相互ラウンドにおいて、慈恵医科大学のカテーテル関連血流感染カンファレンスを参考に、当院においても、当該部署が主体となり、発生事例の検討会開催とICTがオブザーバーとして参加することとした。検討会の開催により、発生要因を明らかにし、改善策検討への提案を行っている。

・ SSI:一般消化器外科46件/614件、心臓血管外科5件/321件であった。術前の臍部処置の徹底、皮膚保清等取り組みはされている。

・ CAUTI(尿道留置カテーテル関連血流感染)は2件(サーベイランス導入していない部署2件発生した。挿入前、挿入中のアセスメントの実施を徹底する。

・ VAPIはHCで1件発生した。集中系部門でのVAP防止のサポートを行っていく。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年1回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>新入職員オリエンテーション 「医薬品の安全管理について」</p>	
<p>医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況</p>	
<p>・ 手順書の作成 (有・無)</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <p>医薬品の採用・購入に関する事項 医薬品の管理に関する事項 患者の持参薬歴情報の収集方法 処方箋の記載方法 調剤方法及び監査方法 患者に対する与薬や服薬指導に関する事項 医薬品の安全使用に係る情報の取扱いに関する事項 他施設（病院・薬局等）との連携に関する事項</p>	
<p>医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況</p>	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>病棟担当薬剤師からの情報提供あるいは医師からの相談。 厚労省HPの「医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議」の資料・議事録、SAFE-DI。各種文献検索ツール。 セーフティーマネージャーカンファレンス、医療安全管理室カンファレンス、医療安全対策委員会等でのインシデント情報の共有とその対策の検討</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年49回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>機器研修はH19.3.30医政局通知（有効性、安全性、使用方法、保守、不具合時の対応、法令上の遵守事項。2回/年）に従っている。人工呼吸器等の高度管理機器・特定絵保守管理機器については医療安全部、看護部、CE部（当院の機器管理部門）等が協力、連携し機器研修を実施している。（令和5年度の機器毎の研修等の実施回数 49回、参加延べ人数約 3653名）</p>	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 （ 有・無 ）</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <p>人工心肺装置、補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動器、保育器、高エネルギー放射線装置及びその他主要ME機器の年間点検計画を策定し機器マニュアル、メーカー指示（点検内容、頻度）に従って各機器のチェックシートを作製し臨床工学技士が通常点検を実施している。また人工呼吸器は通常点検に加えてメーカー推奨の使用時間毎にメーカー定期点検を実施している。</p>	
医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （ 有・無 ）</p> <p>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：</p> <p>機器メーカー、臨床工学技士会、機器等納入業者及び医薬品医療機器総合機構（PMDA）のホームページ、またはPMDAからのメール配信サービスより各種関連情報を入手し関連部門へメール、通達回覧し必要時には担当ME技士及びメーカーSEにより直接、当該部門で改善指導を行っている。</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>全体に関わる事案については医療安全委員会議（各部門リスクマネージャ全員出席）で報告、説明、注意喚起等を実施している。また機器管理部門（当院ではCE部）では定期的に部内で機器保守管理検討会を実施し医療機器の効果的な保守点検管理に努めている。ME機器はCE部で中央管理とし、機種を統一している。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（<input checked="" type="checkbox"/>医師・歯科医師）</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全部長を兼務し、医療安全管理部門と感染制御部門を統括する他、医療安全対策委員会の委員長として各部署のセーフティマネージャーに医療安全対策や医療の質向上等の周知を行っている。 また、毎週1回開催する医療安全管理室の定例会議で、医療安全管理者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者と医療安全対策に係る取り組みの評価を行っている。</p>	
専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> （6名）・無
<p>医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p> 医薬品の安全使用に関わる手順書の作成・改訂</p> <p> 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修会の実施</p> <p> 医薬品の業務手順書に基づく業務実施内容の確認と改善策の実施</p> <p> 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集</p> <p> その他の医薬品の安全確保の目的と改善策の実施</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p> 医薬品安全使用のための業務に資する情報の整理、周知及び当該周知状況の確認</p> <p> 未承認等の医薬品の使用状況の把握のための体系的な仕組みの構築、運営</p> <p> 未承認等の医薬品の使用の必要性等の検討状況の確認、必要な指導、結果の共有</p> <p> 上記措置を適切に実施するための担当者の定め</p> <p>・担当者の指名の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>（所属：医療安全部，職種 看護師 ） （所属： 医療安全部，職種 看護師 ）</p> <p>（所属：感染症科 ，職種 医師 ） （所属： 感染症科， 職種 医師 ）</p> <p>（所属：医療安全部，職種 薬剤師 ） （所属： 医療技術部，職種 臨床検査技師 ）</p>	
医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 （ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：</p>	

診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>診療録の記載内容に関しては、入院診療計画書、退院時要約、毎日のプログレス記載、フォローアップの記載、治療内容の記載、周術期記録、手術及び麻酔、輸血に関する説明及び同意書等の有無などについて診療情報管理士が評価(量的点検)する。また、診療情報管理委員会の各委員(他職種メンバーにて)11名により傷病の特徴、傷病の問題点、一般的な傷病との違い、今後の治療方針並びに考察、経過に関する評価及び問題点について診療内容との整合性や適正に記載にされているかなどを評価(質的點検)する。点検の結果は、診療科にフィードバックして注意を促している。</p>	
医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従(11)名、専任()名、兼任(8)名 うち医師：専従(1)名、専任()名、兼任(4)名 うち薬剤師：専従(1)名、専任()名、兼任(1)名 うち看護師：専従(2)名、専任()名、兼任(1)名</p> <p>(注)報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各部門の医療安全対策の実施状況の評価を行い、業務改善計画書を作成する。計画書に基づく実施状況及び評価結果を記録し保管を行う。 2. 院内医療安全の推進に係る医療安全対策委員会、医療安全対策小委員会、医療問題検討委員会、医療事故調査委員会等で用いられる資料及び議事録の作成保存、庶務に関すること。 3. インシデント及びアクシデントレポート等に関する集計・分析・調査を行い、医療事故防止のための改善策の策定・実施及び周知を行う。 4. 医療事故発生時の対応及び原因究明、診療情報の記載が適切に実施されていることを確認すると共に指導を行う。 5. 院内ラウンドを実施して、医療安全に関する周知状況の調査及び部署の改善事項について必要な指導を行う。 6. 医療安全管理体制を確保するための職員研修の企画・運営を行い、実績を記録する。 <p>また、職員の医療安全向上状況に関する意識の認識についてモニタリングを平時から行う。</p>	

7. 医療安全対策委員会の構成員及び必要に応じて各部門の医療安全管理の担当者等を参加させて医療安全対策の取組に係る評価等を行うカンファレンスを週1回程度開催する。

8. 医療安全管理部門の構成員による医療安全対策推進に関するカンファレンスを週1回程度開催する。

9. 医療安全相談に関し、患者等の相談件数及び相談内容、相談後の取扱いを記録する。

10. 医療の安全に関する最新情報及び警鐘事例について、職員へ周知を行う。

11. その他、医療安全対策の推進に係る指導と連絡調整等に関すること。

平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（3件）、及び許可件数（3件）

・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）

・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）

・活動の主な内容：

1. 申請内容を確認し評価委員会に対して当該高難度新規医療技術の提供の適否及び実施を認める条件等について意見を求める。

2. 評価委員会の意見を踏まえ、当該高難度新規医療技術の提供の適否等について決定し、申請者に対しその結果を通知する。

3. 提供された高難度新規医療技術を定期的に確認し、患者が死亡又は重篤な合併症を発症した場合に診療録等の記載内容を確認する。

4. 高難度新規医療技術が適正な手続きに基づいて提供されていたかどうか、従業者の遵守状況を確認し管理者に報告する。

5. 関係する資料、記録を5年間保存する。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）

・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（・無）

未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（0件）、及び許可件数（0件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・活動の主な内容：
 - 1．申請内容を確認し評価委員会に対して当該未承認新規医薬品等を用いた医療の提供の適否及び実施を認める条件等について意見を求める。
 - 2．評価委員会の意見を踏まえ、当該未承認新規医薬品等を用いた医療の提供の適否等について決定し、申請者に対しその結果を通知する。
 - 3．提供された未承認新規医薬品等を用いた医療を定期的に確認し、患者が死亡又は重篤な合併症を発症した場合に診療録等の記載内容を確認する。
 - 4．未承認新規医薬品等を用いた医療が適正な手続きに基づいて提供されていたかどうか、従業者の遵守状況を確認し管理者に報告する。
 - 5．関係する資料、記録を5年間保存する。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（・無）

入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 321 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 121 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 - 1．本学病院において医療安全に関する重大な問題その他、委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析。
 - 2．分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善策の立案及び実施並びに病院職員への周知。

- 3. 改善策の実施の状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直し。
- 4. 入院患者が死亡した場合における当該死亡の事実及び死亡前の状況に関する医療安全管理室への報告の実施状況の確認及び確認結果の病院長への報告。
- 5. 入院患者の死亡以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして、病院長が定める水準以上の事象が発生したときにおける当該事象の発生の事実及び発生前の状況について医療安全管理室への報告状況に関する確認及び確認結果を病院長へ報告。
- 6. 安全の確保を目的とした改善策の実施状況が不十分な場合における適切な報告のための病院職員への研修及び指導。
- 7. その他医療安全管理方針の策定及び推進に関すること。

他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り ((病院名：東京慈恵会医科大学附属病院) ・無)
 - ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ ((病院名：東京慈恵会医科大学附属病院) ・無)
 - ・技術的助言の実施状況
- 医療安全文化情勢のため安全文化の調査を実施し調査結果により部署ごとの支援を行うこと提案する。

当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況
- 患者相談支援窓口を設置し窓口の一本化を図り、患者や家族からの医療安全を含めた様々な相談に対応している。
- 窓口の設置場所、相談担当者等については、ポスターを院内に掲示している他、入院案内パンフレット、病院ホームページにも掲載し周知を行っている。
- 月1回、各担当者が集まり合同カンファレンスを開催し、電子カルテ内に「サポート記録シート」を作成し、情報の共有を図っている。
- 相談内容については、個人情報保護の方針に基づいた取扱いを行っている。

職員研修の実施状況

・研修の実施状況

インシデントレポート提出の意義について解説した。

(注) 前年度の実績を記載すること (の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者

2023年度特定機能病院管理者研修

医療安全管理責任者

2023年度特定機能病院管理者研修

医薬品安全管理責任者

2023年度特定機能病院管理者研修

医療機器安全管理責任者

2023年度特定機能病院管理者研修

(注) 前年度の実績を記載すること

医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

公益財団法人日本医療機能評価機構による、一般病院3 (3rdG : Ver.2.0) 評価認定中。

(認定期間 : 令和4年1月22日 ~ 令和9年1月21日)

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

病院ホームページ上において公表している。

改善要望事項 : 評価項目 1.1.2、1.5.2

・評価を踏まえ講じた措置

臨床指標を活用した医療の質向上のため、医療の質・機能評価管理室を設置し、改善活動を行うこととした。

医療機能の質の維持向上のため、病院機能評価委員会を設置し、病院職員からサーベイヤーを選出し、定期的に院内サーベイを実施している。

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 病院長候補者となることができる者は、次の各号に掲げる全ての要件を満たす者とする。 (1) 医師免許を有していること。 (2) 医療安全管理について十分な経験があり、必要な知識と能力を有していること。 (3) 高度医療を司る特定機能病院の管理運営において、十分な経験があり、必要な知識と能力を有していること。 (4) 本学における建学の精神に基づき、学部学生の臨床教育の推進に十分な理解と熱意を持ち、医療人の育成に積極的に取り組む姿勢があること。 (5) 地域医療への貢献を果たす使命を達成するための意思と指導力を有していること。 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無) ・ 公表の方法 病院ホームページにて公表している。

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (有・無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (有・無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (有・無) ・ 公表の方法 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (を付す)	選定理由	特別の関係
				有・無

規則第9条の2 3第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・合議体の主要な審議内容 病院の重要事項である管理運営方針、中期計画、予算等を審議し、本学病院の設置目的、医療提供の理念及び基本方針に基づく管理運営を的確かつ円滑に行う。</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況 病院運営会議で承認された事項は、病院部科長会並びに病院連絡会において報告され、職員への周知を行っている。</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>・無)</p> <p>・公表の方法 金沢医科大学病院運営会議規程を病院ホームページで公開している。</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無 (有・<input checked="" type="checkbox"/>)</p>	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (を付す)	職種	役職
川原 範夫		医師	病院長
北山 道彦		医師	病院担当理事
飯沼 由嗣		医師	副院長
川崎 康弘		医師	副院長
佐々木 洋		医師	副院長
浦本 秀隆		医師	副院長
松田 琴美		看護師	副院長(看護部長)
杉森 哲也		事務職	副院長(病院事務長)
高村 博之		医師	病院長補佐(医療安全部長)
島崎 猛夫		医師	医療情報部長
水田 秀一		医師	病院企画室長
中川 透		臨床工学技士	医療技術部長
政氏 藤玄		薬剤師	薬剤部長
中村 光宏		事務職	病院事務部長
木村 洋輔		事務職	病院管理課長
堀 有行		医師	オブザーバー (医学教育センター長)

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ ・ 無 ）
- ・ 公表の方法
病院ホームページにて公表している。
- ・ 規程の主な内容
管理者の有する病院の管理運営上必要な権限及び職務について定めている。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
副院長（金沢医科大学病院副院長任用規程）
病院長を補佐し、また病院長に事故あるときはその職務を代行する。
診療担当、ドック・危機管理担当、中央手術部担当、医療連携・医事・医療安全担当、
総務・臨床教育担当、医療情報担当、渉外業務担当、看護担当、病院事務担当と各副院長に
職務の分担を行っている。
病院長補佐（金沢医科大学病院病院長補佐任用規程）
病院長が指示した事項について調査・企画・立案するとともに、その実施に関して病院長の
職務を補佐する。一般病院業務について補佐している。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
特定機能病院管理者研修会、認定看護管理者教育課程 サードレベル、事務職員管理者研修

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・監査委員会の開催状況：年 回</p> <p>・活動の主な内容： 金沢医科大学病院における医療安全管理の取組状況について医療法施行規則第9条の2第3項第1項第9号の規定に基づき監査を行い、必要な是正措置を含む助言及び指導等を行う。</p> <p>・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・委員名簿の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・委員の選定理由の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・監査委員会に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・公表の方法： 金沢医科大学病院ホムページに掲載している。</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
長島 久	富山大学附属 病院 副院長 (医療安全管理部長)		医療安全業務従事者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
鶴澤 剛	日本大学法学部 法律学科教授		法律学業務従事者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
市川 政枝	元 金沢星稜 大学人間科学部 非常勤講師		医療を受ける者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2
				有・無	
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容
学校法人金沢医科大学監事監査規程において監事による定期的な監査を行っている。
- ・ 専門部署の設置の有無 (・無) 監事
- ・ 内部規程の整備の有無 (・無) 学校法人金沢医科大学監事監査規程
- ・ 内部規程の公表の有無 (有・)
- ・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 理事会による病院の管理・運営体制のチェックが行われている。 ・ 会議体の実施状況（ 年4回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）（ 年4回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ） ・ 公表の方法 学校法人金沢医科大学寄付行為は大学ホームページにおいて公開しており、 金沢医科大学病院病院長規程を病院ホームページで公開している 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (を付す)	利害関係
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年 24 件)・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法 全部署に配置してある「安全管理体制の指針・マニュアル」に制度について記載している。 また、全ての職員が携帯している「医療安全ハンドブック」に概要を記載し周知している。 さらに、電子カルテに報告用紙を掲載し情報提供しやすい環境を整備している。

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類(任意)

1 果たしている役割に関する情報発信

果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
<p>・情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>病院の理念、基本方針や自院の役割、診療機能等を病院広報誌やホームページで情報発信している。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
<p>・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>臓器、疾患毎に複数診療科連携による診療センターの設置 電子カルテによる診療科の他科外来への対診依頼体制の整備</p>	